文部科学省

地域との協働による高等学校教育改革推進事業（地域魅力型）指定校

宮崎県立飯野高等学校　令和２年度　実践報告書

目次

２年目の事業を終えて～コロナ禍から見えたカリキュラム開発の在り方～　1

1 ～ 3　研究概要　2

4　コンソーシアムによる実践　3

5　カリキュラム開発　8

6　えびの学　9

7　地域貢献活動　12

8　地域探究活動　21

9　地域支援活動　40

10　課外活動への波及　55

11　教科と総合探究　55

12　次年度以降の課題及び改善点　57

13　生徒の意識変化　57

14　成果の普及方法・実績について　59

２年目の事業を終えて～コロナ禍から見えたカリキュラム開発の在り方～

２０２０年度はコロナ休校からのスタートであった。その中で強く感じたのが、日常の学習活動から社会と接続していることの重要性である。これまでもそうだが、地域と協働する探究活動を進める上で必要となるのが、いかにして地域のリソースを活用するかが課題である。例えば、市役所などの公的機関はすぐに連携の対象となりうるが、専門的な分野となれば別の機関や企業など専門職が所属する団体の方がよい。これについては、教師が開拓していくことはもちろん、自分事として探究を進めていく上でも生徒自身が広げていくことも認めていくと学校として地域とのつながりがより広がっていく。また、教師が多様な人材と生徒をつないでいくことも重要である。地域をはじめ各教科の専門領域から１人ずつ協力者をつくることができれば、それだけでも豊富なリソースが学校に集まってくることになる。そうなれば、子どもたちの学びの機会は増えより深いものになっていく。つまり、社会に開かれた教育課程を実現するためには生徒・職員ともに学校の枠を超えて越境することが重要である。

本校では、これまですすめてきた飯野高校の探究を核とした教育活動が学校の特色となっている。卒業生への意識調査でも「自分の進路に活かせたか」という問に、すべての生徒（とても役立った７９％、役立った２１％）が肯定的にとらえている。「どのような力が向上したか」という問についても生徒たちが様々な力を身につけたことを実感していることが分かっている。さらに、この数年は校外で成果発表する機会が増えており東京などで開催される全国規模の大会、県内大会で顕著な成績を修めている。

１年目を終えた時点で探究プログラムがすでに定着していたこともあり、主体的に活動する生徒が多くコロナ禍においても大いに活かされた。特に、休校中のＩＣＴの活用は探究と絡めて４年前から遠隔交流を進めてきたこともあり、生徒たちが積極的にオンラインを活用していた。おかげで休校中も職員のオンライン授業や探究のプロジェクトが円滑に進んでいった。このことは、校内だけでなく学校全体の魅力の一つになっており地域からも高い評価を得ている。学校のミッションが何かを考え、担当者だけでなく学校全体で取り組み続けてきたことで，県内外で注目を集めるようになった。高校までに教科“探究”を経験していない教師にとって１から創り上げていくことは容易ではないが、新たな時代に必要な人材の育成が必要であるという視点と、子どもたちと共に学ぶ、創るという視座をもって取り組めば、「総合的な探究の時間」を柱とした学校オリジナルの新しい学び（主体的，対話的で深い学び）につながる教育課程ができるのではないだろうか。

教師が自ら主体的、対話的で深い学びを実践していくことで「総合的な探究の時間」におけるカリキュラム・マネジメントが進んでいくのである。

コロナ禍により今年度の活動が危惧されたが事業指定を受け２年目の実践は、昨年度までの取り組みが活き休校中から生徒主体の実践が見られた。これは、実践を通した生きた学びから得られたものではないかと手ごたえを感じている。３年生では３０以上の地域におけるプロジェクトが展開された。コンソーシアムとの協働も２年目に入って深まってきたことや地域と高校の結びつきがこれまで以上に強まったことが大きい。その成果を報告するグローカル学習成果発表会では、オンラインながら外部から 100 名以上の参加があり新たな形での挑戦をすることができた。また、本年度の県内への就職状況は 86％（目標値 80％）と設定目標を超え過去 10 年で最高となるなど事業の成果も出始めている。

最終年度となる令和３年度は成果につなげることはもちろんであるが、当初からの目的である持続可能な取り組みとなるよう取り組んでいきたいと思う。

1　研究開発名

地域価値を創造するグローカル・ヒーロー育成に向けたカリキュラム開発および実践

2　研究開発概要

本校では、地域課題に関心がある生徒も多く、地域の団体と連携して生徒主体のイベント実践や継続的に様々な活動が行われるなど本校生が地域に欠かせない存在になっている。本校のある宮崎県えびの市でも社会課題を抱えており、地域課題を考えることが社会課題を考えることにも通じる。そこで、これまでの「地域学」を発展させ、新たな価値の創造と地域社会で活躍するグローカル・ヒーローの育成するための３年間を見通した地域課題解決学習のカリキュラムを開発を行う。開発・実践に当たっては地域の団体などと連携して、人材育成により地域創生の核となる高校を目指す。

3　研究開発の実施体制について

①地域との協働による探究的な学びを実現するためのカリキュラム・マネジメントの推進体制

魅力化コアチーム委員会	地域の事業者と教員で構成される。カリキュラム内容に関する提言や探究の伴走の在り方、まなびの場づくりについて協議、対話を行う。
学科・コース会議	学科・コースごとに担任・副担任が構成員となり研究プログラムに基づく実践を行うための連絡会議である。
カリキュラム・マネジメント研修会	本校の探究活動をより深化させるため、教科横断のグループで各教科の実践について協議　→各科目で実践

②学校全体の研究開発体制について（教師の役割、それを支援する体制について）

事務局（進路指導部）に所属する教師が企画・立案を行い、魅力化コアチームに所属する教師が地域のコアチーム構成員とカリキュラム開発を行う。また、学科・コース会議には、すべての教師が学科・コースごとに所属し、実践する上での学習内容や指導法を共有する。また、これらの活動を支援するため、事務局に域協働学習実施支援員、魅力化コアチームにカリキュラム開発等専門家を配置して、活動の支援助言等を行う。

③定期的な確認や成果の検証・評価等を通じ，計画・方法を改善していく仕組みについて

進路指導部を事務局として地域協働推進校としての研究開発全般のマネジメントを中心に担う組織としている。教師と地域協働学習実施支援員で構成する。魅力化コアチームへの原案提示、事業の企画調整、関係機関との連携調整、予算の執行等を担当する。

④カリキュラム開発に対するコンソーシアムにおける取組について

魅力化コアチーム委員会の実施（全５回）	・高校生プロジェクトの在り方・高校生の活動支援 ・人材の還流につながるプロジェクト型学習・高校生との対話 ・グローカル・リーダーとは・カリキュラム開発専門家による研修会

４　コンソーシアムによる実践/管理機関の取組・支援実績

①コンソーシアムの構成団体

【飯野高校魅力化の会】

えびの市、えびの市議会、飯野高校同窓会、えびの市教育委員会、えびの市自治会連合会、えびの市農業協同組合、えびの市商工会、えびの市観光協会、えびの市地域婦人連絡協議会、えびの市子ども育成連絡協議会、えびの市体育協会、えびの市社会福祉協議会、えびの市民生委員児童委員協議会、えびの市教育･保育施設園長会、えびの市青少年育成市民会議、えびの市高齢者クラブ連合会、飯野高等学校PTA、えびの市中学校校長会、宮崎県議会、えびの市 PTA 連絡協議会、宮崎県立飯野高等学校

【魅力化コアチーム委員会】

大正大学、宮崎大学、飯野高校、VoiceGift Lilybell、えびの市青年会議所、明石酒造株式会社、ＮＰＯ法人ニシモロベース、えびの市地域おこし協力隊、えびの市企画課、ＨＡＮＮＡＨ、(株)ＢＥＢＵＹＡ、（有）東康夫養鶏場

②活動日程・活動内容

活動日程	活動内容
令和２年７月２０日（全体会） 飯野高校魅力化の会	今年度事業計画 高校からの現況報告 事業実施に向けての意見交換会
令和２年６月２４日（第１回） 魅力化コアチーム委員会	第１回は、今年度の事業説明を行い、その後フリーの対話で様々な視点での話が委員から出された。概要は以下の通りで第２回以降の協議テーマとして考えていくことが確認された。 ①コロナ禍だが、地方の時代が来るのではないか ②大人も地域に対して何ができるか考える機会が必要（但し郷土愛は強制されるものではない） ③地元の企業に対して学ぶ機会。高校生と一緒に共学する機会をつくる。 ④大人が学ぶ機会が必要で大人たちがよく知ることが大切 ⑤企業とのコラボ（生徒たちが募集をかけて企業からの手上げ式もいい） 若くしてそのような意識が醸成されると将来、地域のチカラになるのではないか、そのために地場の企業を巻き込んで高校生をみせることが必要である。地元こそ外を見ていない（先を観ずに今だけを見ている）ので、高校生がきっかけとなり学ぶ機会が必要である。高校生が自分が培ったものを持ち帰って　えびの　で何かしたい、ワクワクをつくりたいと思えるような地域像、大人像をつくるべきである。 上級生から下級生へのプロジェクトの継承が行われるようにな

	ってきている。これは非常にいい方向だが、一方で引き継ぐだけで、過程を飛び越えてしまい表面だけを引き継いでいるケースも見られる。本当に自分がしたいことなのか見極めも大切である。今、探究的な学びは全国で増えているがこれを未来しごとづくりにつなげていくことも大事ではないか。就職という選択肢だけでなく仕事を創るという意識の醸成も探究の発展形の一つとしてあると面白い。コロナ禍でリモートワークが都市部では進んでいる。都市と変わらない仕事ができる、リスクヘッジとして地方にオフィスを構えていたほうがよいということもある。アントレプレナーシップ教育を考えていく必要がある。
令和２年７月２７日（第２回）魅力化コアチーム委員会	地域をフィールドに生徒たちが持続可能な活動を展開していく上で、大人も共に学ぶ地域ラボのような環境づくりが必要である。国も地域で新たな価値を創ることに力をいれるようであり、これからは都市と地域の両方の良さを活かして働く、楽しむスタイルの開拓が必要なのではないかと考える。つまり、生徒たちのプロジェクト型の活動も事業者と一緒に活動に行えるものを増やし、SDGs も考えながら展開できるとよい。また、飯野高生はボランティアに積極的でこの点は地域からの評価も得ている。ただ、これは自分のためになる一方で将来、地域に根付いた仕事とはならない。飯野高校でグローカル・リーダーになったような子が帰ってこれる仕組みづくりが重要である。以下、その他の意見。 ①高校生プロジェクトの活動自体は素晴らしい。ボランティアを超えて、経済についても学ぶべきではないか。起業実践など。次のステージへ行くべきではないか。 ②高校生の伴走をすることは率先してやるが、自らの取組みについて事前の説明が圧倒的に不足している。→高校生側が説明も必要（なぜ、これをやるのか。しっかり企画書等をつくるワークをするべきである） ③成功体験をさせる必要はあると思うのでラボを使って地域側にも受け入れ態勢をつくるべきである。 ④新しい仕事を創るという意識の醸成→仕事を創ることもできるのだという認識 ⑤地域に仲間となる存在をつくることも必要である。
第３回魅力化コアチーム委員会　９月１６日（水）	第３回は、生徒たちが取り組んでいることを知りたいという委員の要望で生徒との対話の時間を設けた。この日は、県のゆたかさ指標について探究の授業を実施した経緯もあり生徒たちが

	どのような視点でプロジェクト型学習をすすめているのか、支援できることは何かを考える機会となった。委員の一人は、「個別に支援することはあっても、関わっていない生徒たちがどのようなことを考えているのかを知れたのでよかった。高校生が未来について考えていることが印象的だった」と述べていた。
第４回魅力化コアチーム委員会　１２月４日（金）	第４回はカリキュラム開発専門家（山中氏）から委員に高校生を伴走する上でのレクチャーがあった。地域探究においてフューチャーセッションを入れたワークの実践について紹介があり、この日に実際、取り組んだ様子が報告された。活動を進めていく上で、課題解決という視点だけでなく未来志向で考えることをカリキュラム内に盛り込むことも重要であるという助言があった。また、委員からは探究を進める上での以下のような意見、紹介もされた。 ①課題の見つけ方　→振り返りワーク→　実習　→　特定と人と深く関係性をつくる（本音をいえる関係性、実習先の人との対話） ②話を深く聞くワークが必要（データ収集や理論だけでなく）
第５回魅力化コアチーム委員会　１月２７日（水）	令和２年度の実践報告

③カリキュラム開発等専門家又は海外交流アドバイザー

分類	氏名	所属・職	雇用形態
カリキュラム開発専門家	山中 昌幸	大正大学　大学教員	

活動日程	活動内容
６月２４日（水） ７月２７日（月） ９月１６日（水） １２月　４日（金） １月２７日（水）	魅力化コアチーム委員会（全５回） 　各委員の意見をふまえ、県外等での事例や実績等についての紹介や解説、本校における活動の発展性など協議での先導的な役割を果たした。以下は、カリキュラム開発専門家による助言および提供されたテーマ。 第１回 ①コロナ禍だからこそ地方の時代 ②大人も地域に対して何ができるか考える機会が必要 ③共学共創の場をつくる 　第２回 　①成功体験をさせるためラボを使って地域側の受入態勢整備 ②仕事を創る意識の醸成→創ることもできるという認識 第４回

	生徒の伴走の在り方について ①課題の見つけ方　→振り返りワーク→　実習　→　特定と人と深く関係性をつくる（本音をいえる関係性） ②話を深く聞くワークが必要（データ収集や理論でなく）
６月２４日（水）	カリキュラムに関する指導助言 授業見学、テーマ設定のワーク実践
８月１日～１８日	オンライン面談（アイデア出しと視野を広げるための支援）
９月２３日（水） ３０日（水）	ポジティブアプローチ、キャリアやテーマの考え方を理解する指導法について
１１月　２～３日	地域のパートナーとのプラン作りについて
１２月　４日（水）	個人のキャリア開発について
１月１１日（水）	地域リサーチの取り組み方について
１月１８日（水）	各企画のブラッシュアップについて
１月２５日（水）	各企画の先行事例研究について

④地域協働学習実施支援員について

分類	氏名	所属・職	雇用形態
地域協働学習実施支援員	遠目塚　文美	VoiceGift Lilybell　代表	

日程	内容
生徒・職員の要請時	活動のサポート、コーディネート
６月２４日（水） ７月２７日（月） ９月１６日（水） １２月　４日（金） １月２７日（水）	魅力化コアチーム委員会（全５回） 学校と地域をつなぐ日常的なサポートについての報告 ・地域における活動実践報告 ・教職員への情報提供、関係者、団体とのコーディネート ・生徒の活動のサポート
４月　１日（水）	子育て支援プロジェクト市長表敬訪問
５月　９日（土）	ICT 活用に関する調査に係る協議
６月　３日（水）	海外輸出を展開する畜産業との協議
７月１０日（金）	生徒プロジェクトの協議
７月１３日（月）	人吉災害支援プロジェクトの協議
７月１５日（水）	人吉災害支援プロジェクトの実践サポート
７月２９日（水）	「地域人パンフレット」プロジェクト　インタビュー対応
７月３１日（金）	生徒プロジェクトの実践サポート
１０月　６日（火）	静岡県立榛原高校との意見交換
１０月　７日（水）	第１５回マニフェスト大賞　応募サポート
１１月１８日（水）	島根県立津和野高校との意見交換
１２月２５日（金）	県外の高校、自治体と本校の取組みについて意見交換

⑤運営指導委員会について

氏名	所属・職	備考
津曲　洋一	えびの電子工業株式会社　代表取締役社長	
明石　秀人	明石酒造株式会社　代表取締役社長	
矢野　健二	宮崎国際大学　地域連携センター長・大学部長	
福永　栄子	株式会社アイロード　　代表取締役社長	
石坂　乃里子	えびの里山の会　会長	
活動日程	活動内容	
１０月１２日（月）	第１回運営指導委員会 ・学校現況報告　コロナ禍で取り組んでいる探究活動等 ・各委員より えびの電子工業株式会社　津曲委員 ・提案型や子育て支援など地域に必要な人の人との関係づくりが今後必要 明石酒造株式会社　明石社長 ・取り組みが全国で発信されている。生徒たちが工場研修などで 地元企業を知っていただくことが大事 宮崎国際大学　矢野　大学部長 ・高校をどう存続させるか　学校がどんなことをしているか注視している (株)アイロード　福永社長 ・地域の本当の宝を次世代につないでいくこと、SDGs などを通して小さな価値に気づくことが大事 里山の会　石坂会長 ・対話型ワークショップや未来カフェの実践、市民のＩＴに対する意識向上もふくめて生徒たちの活動で成り立っている。 また、以下のような意見も出されその後の取組みに活かしている。 ・どのように何を学んできたかが大切 ・探究の成果を英語で表現する機会をつくるとよい ・一番変わるべきなのは教員なのでは？ ・偏差値（スポンジヘッド）の知識偏重では評価できない ・探究を通して人を思いやる　協働　社会性　仲間を考える ・コミュニケーション能力 ・英語能力の向上 ・今までの授業を見直す好機 ・評価は役割ごとに行った方がよい （評価をリードする生徒、サポートする生徒という視点） ・学内での賞を増やしていくとよいのではないか	

	・いろんな経験を積んでいる生徒は強い ・いろんな経験を教員がどれだけ仕掛けられるか大事 ・子供たちのキャリア形成のために何が必要かを教員が語る ・地域との関係を失わずにやっていってほしい
２月予定	第２回運営指導委員会 ・令和２年度の総括 ・令和３年度へ向けて

５　カリキュラム開発

①実施日程

業務項目	実施日程											
【1】①②④⑧	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
地域学のカリキュラム開発			ｺｱﾁｰﾑ委員会	指導助言	ｺｱﾁｰﾑ委員会	研修会	ｺｱﾁｰﾑ委員会			ｺｱﾁｰﾑ委員会	指導助言	研究会
【1】③⑦ カリキュラムマネジメントの研究				研究授業		研修会		研究授業				研究会
⑤グローカル学習成果発表会 2020						企画		準備			開催	
⑥全国グローカルリーダーズ summit						企画		準備			開催	
⑦⑨⑩⑪ 視察研修					SR ｻﾐｯﾄ						ﾏｲﾌﾟﾛｻﾐｯﾄ	県外校視察
【2】【3】起業家共同プロジェクトの実践												

②地域との協働による探究的な学びを実現する学習内容の教育課程内における位置付け（各教科・科目や総合的な学習（探究）の時間，学校設定教科・科目等）

各学科・コースに以下の学校設定科目をカリキュラム化している。

学科 コース	１年生	２・３年生		
	全学科	普通科総合コース	普通科探究コース	生活文化科
科目名	えびの学 週１単位	地域貢献活動 週２単位	地域探究活動 週 1～2 単位	地域支援活動 週４単位

③研究開発の内容や地域課題研究の内容について

本年度は、休校等により計画していた内容・実践を見直すことから始まった。計画で作成したカリキュラム内容の目的に合うものになるよう次の事に取り組んだ。

6「えびの学」（探究の基礎）

①えびの学～ＪＣフォーラムと地域実習を柱とした取り組み～

年度当初から計画変更を余儀なくされたものの以下のように年間を通して実践した。探究的な学びはもちろんキャリア教育の要素を入れるなどの修正を加えながら取り組んだ。

1学期	適正診断 地域の職業を知る 飯野高校での活動について知る 未来予想図づくり
2学期	地域実習に向けて ・問を見つける　　・情報を収集する 地域実習 ・実際の現場から問を見つけ情報を整理分析する 実習成果発表会 ・論理的に考え、表現する→プレゼンの作成
3学期	地域の未来・自分のミライを考える ・問を見つける→テーマの設定・情報の整理分析

総合的な探究の時間を代替する学校設定科目で、1 年生 79 名が対象である。内容としては、2 年時以降の探究活動にスムーズに移行できるよう地域で探究の基礎を学ぶということをコンセプトに「地域課題を考える」「問を立てること」「情報収集」の方法を 1 学期の計画を変更し、地域実習による実践を通して学ぶ機会とした。

②えびの青年会議所フォーラム（7月）

この取り組みは、地域で未来への意志をもって活動している３０～４０代の事業者と高校生が交流することで、「高校生が地域を知る」「地域でもできる」ことを実感してもらうことを目的にえびの青年会議所フォーラムとして開催している。当日は、宮崎大学地域資源学部を卒業し市内に勤務する岡園和也氏（卒業生）の講話、地元事業者とのクロストークを通して、この先に取り組む地域活動に向けた理解や地元にいながらも持っていなかった視点を養うことができた。また、事後学習では将来の自分についても考える機会をつくりキャリア教育の要素を入れたものとした。

青年会議所フォーラム事後学習の授業内容

使用する教材
・進路ファイル・青年会議所フォーラム感想文・事後指導ワークシート（My Will List）
本時の目標
青年会議所フォーラムを終えて、これから取り組みたいことや挑戦してみたいことを書き出し、今後の探究活動におけるテーマを見つける準備を行う。

時間	指導内容
１０分	青年会議所フォーラムの感想の返却を行い、振り返りを行わせる。自分が書いた感想を再度読ませ、その感想を４～５名のグループで共有させる。１人３０秒程度で感想を言う。また、グループで共有させる前に全体に、どのようなことを感じたか、問いかけても良い。
５分	本時の学習目標を確認する。 ＜学習目標＞ My Will List で自分の取り組みたいこと、挑戦したいことを見つけよう。 補助資料の探究テーマを探す２つの輪と今後どのように探究テーマを見つけていけばよいか、説明する。
１０分	My Will List の取り組み方について説明し、やってみたいこと、取り組みたいこと、挑戦してみたいことを何でもいいので、たくさん書き出させる。この際間違った答えはないので、たくさん書き出すよう指示する。
１０分	My Will List に書いたことを共有する。書いたプリントを生徒同士で交換し、４～５名を目安にコメントを記入させると良い。この際、否定的な表現は使わず、書かれた相手が嬉しくなるような前向きなコメントを書くように伝える。
１５分	My Will List に書いたものの中から２つのキーワードを選び、なぜ、そのキーワードを選んだのか、記入させる。記入が終わったら、４～５名のグループで共有をさせる。（自分の考えをアウトプットさせることが目的です。）

③地域実習（９月～１１月）

２学期は、１０月に実施する３日間の地域実習を柱とした探究の基礎を学ぶ機会に位置付けている。生徒たちは事前学習～振り返りまで探究のサイクルを体験し次年度につなげるプログラムにすることができた。

月	日	曜日	内容・備考
9	9	水	最初の１５～２０分間で希望調査を行う。
	１５	火	生徒の希望調査を元に、生徒の配属先を検討。（学年会）
	１６	水	事前指導① 全体説明、しおりの配布、各グループで活動
	２３	水	事前指導② 各グループで活動、事業所の調べ学習、目標設定
	３０	水	事前指導③ 事業所への事前確認電話の練習
１０月１６日（金）までを目安に電話をさせる			
10	１４	水	事前指導④ 外部講師によるマナー講座
	２７	火	事前指導⑤ ＜LHR をえびの学に振替＞

			学年全体で注意事項の確認等
１０月２８日(水)～３０日(金) 地域実習実施			
11	2	月	朝の HR でしおりを回収し、担当の先生でチェック
１１日(水)までに未記入等ある場合は、担当の先生で指導をする			
	１１	水	事後指導① 全体指導、各グループで報告、お礼状の書き方指導
	１８	水	事後指導② お礼状の清書、発表会に向けた準備
12	2	水	事後指導③ 発表会に向けた準備
	9	水	全体発表会①
	１６	水	全体発表会②、地域実習まとめ

地域実習の様子

地域実習はもともとインターンシップであったが、探究的な要素もいれた地域実習へと変化させている。単に事業所での実習という位置づけでなく地域を様々な角度からみる 3 日間にして、問を持たせることで探究のベースを学ぶ機会としている。このこともあり実習の成果発表では、単に事業所体験でなく、地域から学んだ内容も目立った。

発表会の様子

7　地域貢献活動

地域貢献活動は、１年間の地域実習を柱に取り組みながら実習先でのプロジェクトを実践するカリキュラムとなっている。今年度は実習の中から設定したテーマを実現するために企画書の作成、提案、実践に向けた取り組みを行った。

①全体計画

学校設定科目で、普通科総合コース２・３年生 52 名が対象で行っている。休校による計画変更で「えびの市を考える」をテーマ別講話の内容を短縮したが、７月の実習準備を経て予定通り「地域実習」（２年９月～３年７月）を実践することができた。

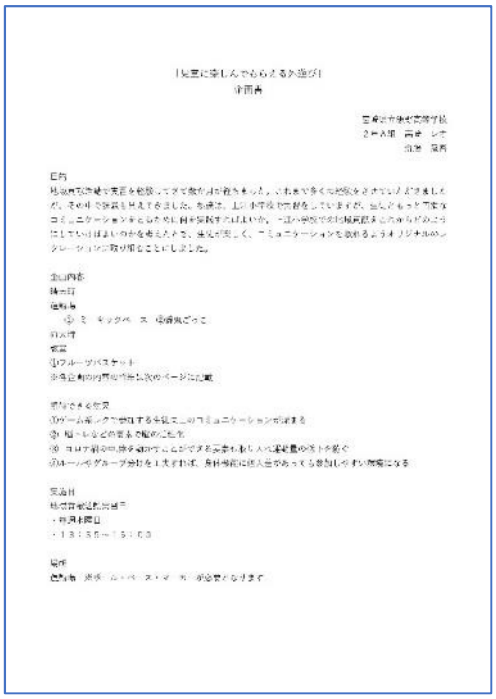
年	月	実施項目
2	6	えびの市を考える①～② ・市役所出前講座による対話型研修
	7	地域実習に向けて→テーマ設定
	9 3	地域実習①～⑱ グループ協議（目標設定）→実習→振り返り（課題→解決策）
3	6 7	地域実習⑯～㉜ グループ協議（目標設定）→実習→振り返り（課題→解決策）
	9 1 2	地域実習成果レポート作成　発表プレゼン作成 グローカル学習成果発表会企画会議
	2	グローカル学習成果発表会

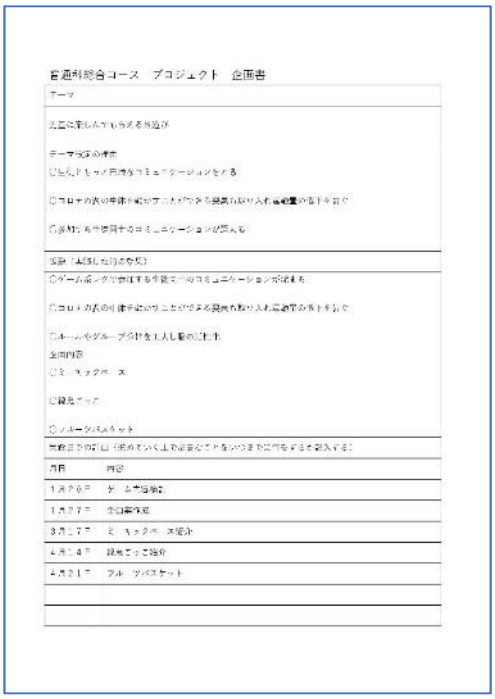
②【連携事業所（実習施設)】えびの市立飯野小学校、社会福祉法人慶和会、医療法人武雄会、株式会社エーコープみやざき、えびの市民図書館、ＪＡえびの市、道の駅えびの、えびの市立上江小中学校

約１年間の実習中に考えた課題テーマの解決に向けた実践を行った（グループ協議（目標設定）→実習→振り返り（課題→解決策）※繰り返す)。実習終了後は、活動全体の個人レポートの作成、発表会に向けたプレゼン資料やポスター作成を行い、グローカル学習成果発表会の実行委員会を組織して企画・運営を行った。

③企画・実践

実習の中では、企画書の作成、実践を行い探究のサイクルを回していく取り組みを今年度は強化した。実践テーマを決定したらテーマに即した具体的な計画を立てていく。その際、統一様式の企画書づくりを同時に進めていき、企画書を完成させると具体的な実践の提案を各事業所で行った。





ここでは以下の内容を入れるようになっている。

目的（テーマ設定の理由）

企画内容

仮説（期待できる効果）

実践までの計画（実施日、場所など）

企画書の内容を実施する上での細かい準備および手順

これは、体験の中から探究していく方法を学んでいくこともものである。取り組みの様子からも実習の経験が活きたものとなっており、実習報告書を活用したりグループ内でアイデアを出し合いながら主体的な活動となっていた。

④実践

週２時間の実習においては例年、指示されたことに取り組むだけで１年を終える生徒も少なくない。そこで、企画書を用いてテーマに即した課題解決策や改善に向けた取り組みを実践することにより「自ら考え行動する力」を身につける。また、事業所で内容のプレゼンを行い企画実現に向けた活動や実践を繰り返すことにより探究のサイクルを回していく。

地域貢献活動　活動テーマ

・地域の人が使いやすい店舗（A コープ）

・健康に育つ保育の環境づくり（飯野保育園）

・利用者のストレス軽減（グループホームあおい）

・地域の人が親しみやすい図書館（えびの市民図書館）

・えびのの特産品を広めるために（道の駅えびの）

・レクレーションで利用者を笑顔に！（ほうよう）

・未来を担う児童が育つ環境づくり（上江小学校）

・子どもたちを導く環境づくり（第二和光幼稚園）

・「あそび」から学ぶ環境づくり（飯野小学校）

⑤実習中止時の探究、課外活動への発展

また今年度は、コロナ禍というイレギュラーな状況で実習自体が直前に中止となる施設も出てきた。しかし、そこで活動が止まるのではなく実習が休業となった生徒たちが自主的に企画し実践されたのが人吉豪雨災害支援プロジェクトである。この企画は、昨年７月に豪雨により深刻な被害をうけた熊本県人吉市の子どもたちを支援しようと、えびの市内での街頭募金を行うというものであった。実践は人員配置や場所の選定（許可取り）などすべて課外活動として生徒主体で行われた。実績としても３日間で１５万円の寄付を集めて被災地でこどもの支援をしている団体へ直接届けるなど企画から実践まで日頃の実習活動による取り組みの成果があらわれた。

LCA 幼稚園プロジェクト～子どもたちを導く環境づくり～

普通科総合コース3年　横田真穂

テーマ設定の理由

私たちが活動を行っている第二和光幼稚園は、三歳から五歳までの園児がもも組さん、うめ組さん、まつ組さんの三つの組に分かれて過ごしている。また、園はお寺の敷地内にあり、仏教の教えに従って園児を育てている。園児の数は少ないが、どの園児も活発である。実習においては、掃除やレクリエーション、読み聞かせや着替えの手伝い、展示物の作成などを行っている。園児たちを見ていると、先生の言うことをきちんと聞いている一方、何でもかんでも触ったり、その場に寝そべったりしている様子が見受けられることから「子どもたちを導く環境づくり」というテーマで、実習内容の掃除に視点を置き、各教室やホールを中心に綺麗にし、園児が楽しく過ごせたらと考えてこのテーマを設定するに至った。

テーマ実習活動を通しての学びと変化

具体的な活動内容
・園児とふれあい　・掃除　・読み聞かせ
・着替えの手伝い　・草取り・先生の補助

活動での成果
・自ら動くことができるようになり、与えられた時間でより質の良い活動にしようと考えて動くことができるようになった。
・子供のことが改めて好きになった。

活動で困ったこと
最初の方は何をすればいいのか分からなかったこと。

自分に足りないこと
：目を見て話す
：挙動不審にならない
：周りをよく見る

LCAで習得したことで日頃の生活にいかされていること
自ら動くことができること。

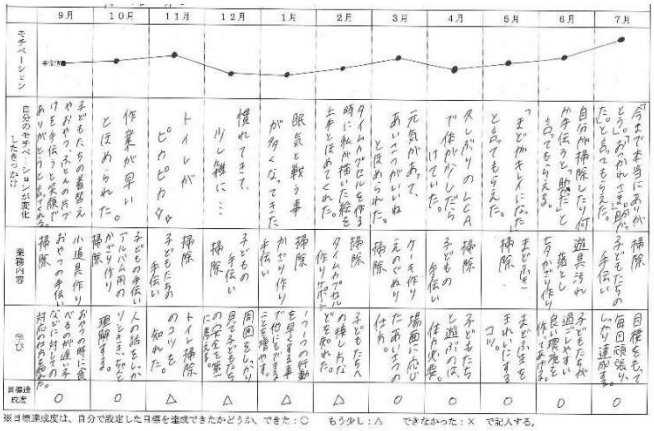
実習前	実習後
苦手な人はあまりかかわらない	小さな子どもや大学の実習生の人が苦手だったけれど接することで苦手な人でも仕事だからとわりきってしっかり話すようになった。そうすることで、いいところがたくさん見えてきた
掃除が苦手だった	永遠に掃除をしていたので掃除ができるようになった。
目を見て話せない。	読み聞かせをするときに目を見て、また、手の動きや話し方など練習したおかげで、感情をしっかりと伝えられるようになった。
今の活動に対して地域の方々の思いが分からない。	園児の保護者の方々や、行きや帰りにすれ違う地域の方々が「がんばってね」など様々な反応を感じることができた。
積極性がない	自分の作業が終わってもほかの仕事をしようと思うようになった。

園児たちとのふれあい
写真のように一緒に絵本を読むこともあったが、外やホールで遊ぶこともあった。子供たちにとって一番大切で楽しい時間だと感じた。

2、清掃活動（床）

園児が裸足で走り回ったり、寝たりするので、たった２時間の活動の中でも、廊下　ホール　ベランダは少なくとも一回教室は少なくとも二回は箒ではわきました。

実習期間中のモニタリングツール



※目標達成度は、自分で設定した目標を達成できたかどうか、できた：○　もう少し：△　できなかった：×　で記入する。

活動全体での学び
私がこの活動を通して学んだことは、仲のいい人でも、苦手な人でもしっかりとしたコミュニケーションをとれるようになったことです。苦手な人でも会話をしていくうちにその地との良いところが見れるようになりました
また、私がこの活動を通して将来役にたつと思ったことは、掃除を頻繁に行うということです。
周りをきれいにしておくことで、ほしいものがすぐに見つかり作業がはかどりました。

地域貢献
① 子どもたちと遊び先生たちに時間ができたと思う。
② 道路付近の草取りをして、綺麗にできた。
③ 子どもの成長に関わることができた。
④ 子どもの周りの環境を綺麗に保つことができた。
⑤ 地域の子どもに関心を持つようになった。

地域に貢献するということ
実習を終え、貢献できたことがあるかと考えると分からないけど、実習の時に行っていた掃除などは地域の園児の環境を綺麗に保つことができたということではないかと思います。このように誰かのためを思って行動したことは地域に貢献したことだと思います。

今後の地域との関わり
私は地元を離れ保育のことを学びます。短大卒業後は地元に戻ってきて、学んだことを生かした保育をしたいと思っています。また、短大の二年間で地元のことを考えて保育の課題を解決できるようにしたいです。

ＬＣＡ
飯野小学校～児童一人一人にＥＮＪＯＹ＆ＳＭＩＬＥを

普通科総合コース3年　田口　由妃楓

テーマ設定の理由

私たちが活動している地域貢献活動は、普通科総合コースの学校設定科目で独自のカリキュラムで行っている。これは、地域における学習を学びのきっかけと考え、自らのキャリアや地域の未来について考えるものである。また、社会性やコミュニケーション能力を身につけ、学ぶ意義について考える機会、実際に市政や市内の活動に関わっている講師を招聘し、学びを深めるなど多様な視点で学べるプログラムとなっている。特に１年間という長期にわたる地域実習では、実習先において多様な人々との交流や業務など校内ではできない経験を積み、地域社会について多くの事を学んでいる。本稿では、１年にわたる地域実習の中で定めたテーマをもとに実践から得られたことについて紹介する。

テーマ実習活動を通しての学びと変化

具体的な活動内容

〇昼休み（児童と交流し仲を深める　〇授業の手伝い
（6年生　体育・音楽　5年生　理科・英会話・家庭科）
〇図書館の整理　〇下校指導

活動での成果

主にコミュニケーション能力が身についたと思います。特に児童は疑問に思ったことを聞くということ、想像力が豊かなのでどうしたら納得いくかなとか分かりやすいかなど考えるので説明する力も身についたと思います。

活動で困ったこと

最初の方は何をすればいいのか分からなかったこと。

自分に足りないこと

このLCA活動を通して積極的に行動ができるようになったとは思いますが、これから生活していくうえではもっと積極性が必要になってくるのかなと思うのでそこをしっかりしていきたいと思います。

LCAで習得したことで日頃の生活にいかされていること

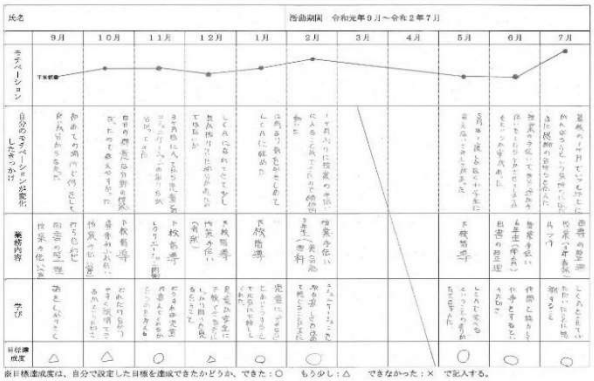
自分で考えて行動するということ、笑顔でいることが増えたおかげで学校生活での楽しいと思える時間が増えましたし、生かせているなと感じることができています。

授業では、まず自己紹介をしてから一緒に授業を受けたり、実際に生徒に教えたりしました。
主に参加した授業は、英会話、算数、音楽、体育です。

授業の次に主に行ったのが図書室の整理整頓です。飯野小学校に限らず学校は本がとても多いので、正しい場所に直すということがとても大変でした。また、元の場所に戻すだけでなく学年ごとにどんな本を読むかと考えてそれを分けるという作業も大変でした。

実習前の自分	実習後の自分
相談するということをあまりしなかった	児童がどうしたら喜んで遊べるかというのでレクリエーションを計画し、先生方と事前に話し合いをすることで相談するということが身についた。
正しい言葉の使い方	先生方と話していて自分がおかしな言葉遣いをしていないか失礼なことを言っていないかこの活動を通して学ぶことができた。

実習期間中のモニタリングツール


氏名
活動期間　令和元年9月～令和2年7月
9月
10月
11月
12月
1月
2月
3月
4月
5月
6月
7月
モチベーション
自分のコミュニケーション力変化したきっかけ
業務内容
学び
目標達成度
下校指導
校指導
校指導

LCA 道の駅プロジェクト

～より一層綺麗で買い物しやすい施設へ～

普通科総合コース3年　石原田凛

テーマ設定の理由

私たちが活動を行っている道の駅えびのは、県内の人だけでなく県外からの観光客など多くの人が利用する施設である。えびので採れた、野菜や果物や加工品を主に販売している。その他にも、お土産や工芸品、焼酎も販売されている。実習においては、袋詰めや品出し、施設内の掃除や窓ふきや道路沿いに置かれている旗の交換などである。品出しの際に、賞味期限などに注意しながら行っている。利用者の方に、楽しんでもらえるように、季節に合った物を入り口において、より一層買い物などが楽しめるように、従業員の方と一緒に展示物を作ったりする。「より一層綺麗な施設にして楽しく買い物ができる施設へ」というテーマで、これらを実践することによって県外からの観光客だけでなく、従業員や自分たちも気持ちよく活動することができるので、このテーマに至った。

テーマ実習活動を通しての学びと変化

具体的な活動内容
- **商品並べ・品出し・新聞切り**
- **プチプチ切り（購入された割れ物などを包む）**
- **商品シール貼り・封筒のり付け・メモ用紙作り**
- **賞味期限チェック**
- **レジ打ち・食器片づけ・食器拭き・掃除・旗かえ**
- **ゴミ拾い・クリスマスツリー作り**
- **カゴ，カート，ドアノブ消毒**

活動での成果
- **・積極的に行動する力**
- **周りを見て行動する力**
- **時間を意識して行動する力**
- **コミュニケーション能力**
- **臨機応変に対応する力**

活動で困ったこと
- **距離が遠いいから、行き帰りに時間がかかる。また、疲れる。**

自分に足りないこと
- **お客さんとのコミュニケーション能力。**

LCAで習得したことで日頃の生活にいかされていること
- **積極的に、係決めや、リーダーなどの役割に、立候補したり、自分から何か活動を行いたいと、思うようになった。また、周りを見て、その場にあった行動ができるようになった。また、自分が決めたことをやり抜く気持ちも強くなった。**

実習前	実習後
自分から動こうとしなかった。	実習をしていくうちに、積極的に動く事が大切という事を知り学校生活でも積極的に動くようになった。 →委員長、副団長、オープンスクール実行委員
周りを見て行動していなかった。	周りを見て行動すると、自分が思っている以上に、やる事があるという事を感じ、周りを見て行動するようになった。 →委員長、副団長、オープンスクール実行委員
ボランティア活動をあまりしていなかった。	ボランティア活動は、貢献するだけでなく、自分にも学びが得られるという事を、LCA活動で感じた。そして、今まで以上にボランティア活動に参加するようになった。 →保育ボランティア、イベントSTAFF、 オープンスクール実行委員

活動全体での学び

私は、積極的に自分で仕事を見つける事の大切さや、周りを見て臨機応変に対応することの大切さを学びました。積極的に自分から動くことによって、指示を出されてやっていた時には気付かなかった事にも気付くようになりました。また、臨機応変に対応することは普段の学校生活にも生かせるようになりました。

私は、今まで行ってきたLCA活動を夢である保育士の仕事に生かしたいと考えています。

例えば、周りを見て行動する力は、子供たちに怪我や事故が起きないようにすることに生かし、また、臨機応変に対応する力は、子供たちに何かあった場合落ち着いて適切に対応できるように生かしていきたいです。

①商品並べ

この活動は、ほぼ毎回行いました。商品が並んでいなった時に、それを並べ直した。また、商品の賞味期限や、品質に不備がないかなど注意しながら行いました。お客様からの、信頼を得るために、大切な事だと思った。

②掃除

店の掃除以外にも、事務所や調理場、駐車場などの掃除も行った。きれいに見えても、掃除をしていくと汚れがたくさんあった。だから、隅々まで丁寧に作業する事が大切だと思った。

③品出し

この活動もほぼ毎回行う活動の一つでした。賞味期限を見ながら、賞味期限が近いものを前や上に出すことを意識しながら行った。この時に、賞味期限切れの商品がないかも注意しながら行った。細かいところにも、目を向けながら作業する事が大切だと思った。

実習期間中のモニタリングツール

地域貢献

①カゴ・カート・ドアノブの消毒をして、感染症対策を行った。
②掃除をして清潔に使えるようにした。
③声をかけられたら、笑顔でハキハキと話してコミュニケーションを取った。
④商品並べをして見やすくした。
⑤賞味期限チェックをして食中毒予防を行った。

地域に貢献するということ

私は、地域に貢献することは、自分にも学びがあるという事を感じました。地域に貢献する活動を行うことによって、地域にじかに触れ、地域について色々なことを知ることができました。地域と私たちは、持ちつ持たれつだと思いました。だから、できる活動は積極的に参加して活動を行っていきたいです。

今後の地域との関わり

私は、このえびの市から離れますが、えびの市で高校から生活するようになって多くの事を学びました。だから、えびの市に帰ってきたときには、道の駅など地域貢献活動を思い出し、これから住む新たな場所でも、この活動を生かせるように頑張りたいと思います。

LCA 保育園プロジェクト～園児がすごしやすい環境づくり～

普通科総合コース3年　内村　未優

テーマ設定の理由

私たちが活動を行っている飯野保育園は地域に住む多くの子供たちが利用している保育園です。約１００名の園児たちが多くの自然に触れ元気よく過ごしています。私たちが、活動を通して学んだことは、コミュニケーション・自ら行動する力・周りを見る力の三つを学びました。保育園の仕事では、各行事の衣装作りや準備、月ごとに園児が作る作品準備や展示、他にも掃除やおやつの配膳などといった多くの仕事があります。これらの仕事は全て私たちが学んだ三つの力が必要になります。仕事中でも、子供の安全面や体調を見ながら仕事を進めなければなりません。この際に最も重要になるのが周りを見る力です。また危険なことをしていたり、トイレに行きたそうな子がいた場合に注意したり連れていったりする時に自ら行動する力が必要です。そして保育園では、園児だけではなく勤務している先生方や保護者、外部からくる関係者など多くの人と関わるのでコミュニケーションも欠かせません。保育園での仕事では、この三つ以外にも集中力や効率よく仕事を進める力などが大切ですが、どの仕事にも欠かせないコミュニケーション・自ら行動する力・周りを見る力が最も重要なことだと思い「園児一人一人に目を配り、臨機応変に行動する。」というテーマに至りました。

テーマ実習活動を通しての学びと変化

具体的な活動内容
- 月ごとの作品の準備・展示・月行事の準備
- 清掃（トイレ、窓、ホールなど）
- 園児の手伝い（寝かしつけ、布団たたみ、トイレ）
- おやつ配膳、片付け

活動での成果
- 周りを見て効率よく行動する力が身についた。
- 場に応じた挨拶ができるようになった。
- 責任感をもって行動するようになった。

活動で困ったこと

言ってもきかない園児にはどのように注意して動かせば良いのかが分からず困った。

自分に足りないこと
- 人をまとめきれないこと。
- 恥ずかしがること。

LCAで習得したことで日頃の生活にいかされていること
- 場に応じた挨拶ができる。
- 気を使って行動ができる。
- 小さい子への関わり方が分かった。

月行事の準備

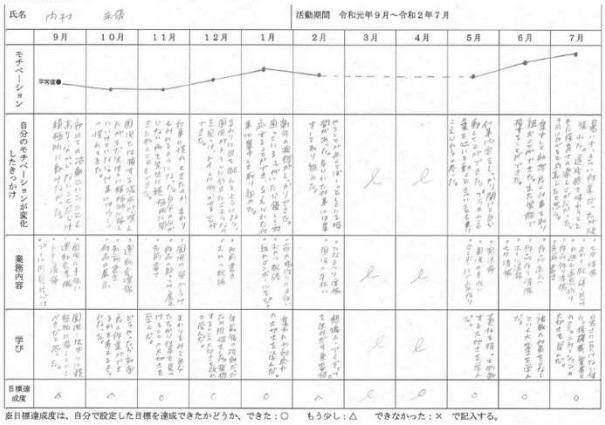
園児が運動会・お遊戯会が楽しめるように、用具準備をした。運動会準備では、プログラム作りや競技に使うものを丁寧に作った。お遊戯会準備では、劇に使う小物の作成や衣装のほつれがないかの点検などをした。また七夕やひなまつりの準備では、四季が感じ取れやうすい様に色など工夫して作った。どうすればかわいく見やすくなるのかを考えてデザインしている先生を見て想像力が重要になることが分かった。

おやつの配膳・片付け

特に衛生面に気を付けた。当番さんに配るものを教えたり、配膳されていないところを教えたりした。またお菓子の袋を開けれない子の手伝いもできた。片付けでは、ゴミの回収、テーブル拭きなどをした。観察力や変化に気づくことが大切だと分かった。

実習前	実習後
状況に応じた挨拶ができてなかった。	保育所に行ったら必ず園内にいる全ての先生方に挨拶をした。 →その場の状況に応じた声の大きさで挨拶できるようになった。
ボランティア活動に参加していなかった。	何事も集中力を切らさず集中して取り組めるようになった。
準備が遅かった。	保育所で月ごとの作品の準備や各行事の準備などをしていくにあたり、早めの行動が大事なことがわかった。
周りを見る力がついた。	園内で仕事をしながら周りを見ていくことにより周囲に気を配ることができるようになった。仕事がない時も仕事を見つけることができるようになった。 →文化祭の小道具準備の手伝いなど自らできた。

実習期間中のモニタリングツール



活動全体での学び

私は、将来保育士になりたいと思っていてLCA先は飯野保育園を選択しました。毎週水曜日に実際に体験していくことにより、保育士の仕事内容や大変さがわかりました。私がこの活動を通して学んだことは、保育士という仕事の大変さです。実際に体験して沢山のことを学びました。作業をしながら周囲に目を配ることの大変さや、安全面に責任をもって対応していくことの大切さを学びました。また保育士は、園児や保護者と接するだけではなく、業者の方とも接していくのでコミュニケーション能力が必要になっていくということも学びました。直接保育士の仕事を見て体験していくことによって、たくさんの“気づき”がありました。こどもたちが安全に遊ぶことが出来るような遊びを考えたり、牛乳パックやダンボールといった、資源ごみになるようなものを使いおもちゃを作ったりと発想力も必要になっていくことが分かりました。さらに、段差をなくしたり、戸先にクッション材をつけたりするなどといった、工夫が施設内のいろいろなところで見ることができました。これらの学びは進学先で行われる実習などに繋ぐことが出来るものだと思います。またこれらの経験は、面接などで大きなアピールポイントになっています。

地域貢献

①感染予防を園児にさせることができた。
②地域の子供と関わりを持つことができた。
③お手伝いにより先生たちの手間をはぶけた。
④トイレや窓掃除などにより園内の清潔感を保つことができた。
⑤各行事の手伝いにより子供たちが喜べるようなものを作れた。

地域に貢献するということ

地域に貢献することは楽しいことだと分かりました。私にとっても地域の方にとってもよい活動だと思います。実習中には保育士である大人たちに大学での話を聞くことができ、進路についても深く考えることができました。また保育士の裏仕事や大変さなど知れたのでよかったです。さらに夏休みに保育園に行き実習するなどと自ら行動できたので良かったです。

今後の地域との関わり

私の進路先は県外ですが就職時には県内で働くという考えもあります。もし県内で働くことになったら、宮崎県に貢献できるような活動を保育士として行っていきたいです。また、県外で働くとなった場合でも同じように貢献できるような活動をしていきたいです。

ＬＣＡ　ほうよう～利用者がすごしやすい環境づくり～

普通科総合コース3年　兒玉　未来

テーマ設定の理由

私たちが活動を行っているほうようには、認知症の方や足が悪い方、耳が悪い方などたくさんの利用者さんがいます。色々な利用者さんがいるなかで、どのようにして接するのかということを考えてコミュニケーションをとるのがすごく難しい。利用者さんと話すときは、大きい声で聞こえるように話すようしていた。そして私たちが行っていた仕事は、利用者さんとコミュニケーションをとる、椅子並べ、ふきん干し、おやつ配り、クリスマスの飾り作り、布団たたみ、リハビリ体操、ゲームの手伝い、ベッドメイキングをしていた。私は利用者さんとのコミュニケーションが一番大切だと思った。コミュニケーションをとるには、自分から話しかけることが必要である。何に対しても自分から進んですることが大切だと思った。

テーマ実習活動を通しての学びと変化

具体的な活動内容
ベッドメイキング、手すりの消毒、おやつ・お茶配り、利用者さんとのコミュニケーション、ゲームの手伝い、リハビリ体操、おしぼりを絞る、布団たたみ、入浴介助の手伝い、タオル片付け、イス並べ、ふきん干し

活動での成果
・最初のころはコミュニケーションをとることができていなかったが、慣れていくうちに自分から話しかけるようになった。
・自分から行動することを心掛けていたら、少しだが行動できるようになった。・相手に聞こえる声で話せるようになった。

活動で困ったこと
利用者さんが言っていることが分からないことがあった。
・自分が言っていることが伝わらないことがあった。

自分に足りないこと
自分の意見を相手に伝える。コミュニケーション
・作業を早く終わらせる

LCAで習得したことで日頃の生活にいかされていること
作業を行うときに時間内に終わらせられるよう一生懸命頑張っている。コミュニケーションをとるために自分から話しかける努力をしている。相手に聞こえる声で話すようにしている。

リハビリ体操
この活動では、高齢者の方々でもできる体操や音楽に合わせてリズムをとったりした。頭の体操をしたり指の体操をして認知症にならないようにするためだと聞いた。体操をすることで利用者さんが少しでも健康でいられるようにしているのだなと感じた。

この活動では、年行事を行うための準備や手伝いをした。クリスマスツリーの飾りつけをしたり、クリスマスの飾りを作ったりした。年行事が来たら職員の方々がいろいろと飾りを作ったり歌を歌ったり芸をしていて利用者さんを楽しませようとしているのがすごく伝わった。

実習前	実習後
コミュニケーションがとれていなかった。	自分から利用者さんに話しかけることができるようになった。
作業を行うスピードが遅かった。	時間内に作業を終わらせられるようになった。
自分から行動できてなかった。	分からないところは自分から聞けるようになった。
相手に聞こえる声で話せていなかった。	大きな声で話すよう意識して話せるようになった。
分からないところを聞けていなかった。	授業で分からないところは自分から聞こうとするようになった。

実習期間中のモニタリングツール

活動全体での学び

私がこの活動を通して学んだことはコミュニケーションの大切さです。利用者さんと接するために自分から話しかけてコミュニケーションをとっていくことがすごく大事だと思いました。最初のころはなかなか自分から話しかけることができず戸惑っていることが多くありました。しかし、利用者の方から話しかけてくださり、自分も話しかけられるようにと心がけていたらいつの間にか自分から話しかけることができるようになっていました。

地域貢献

① 子どもたちと遊び先生たちに時間ができたと思う。
② 道路付近の草取りをして、綺麗にできた。
③ 子どもの成長に関わることができた。
④ 子どもの周りの環境を綺麗に保つことができた。
⑤ 地域の子どもに関心を持つようになった。

地域に貢献するということ

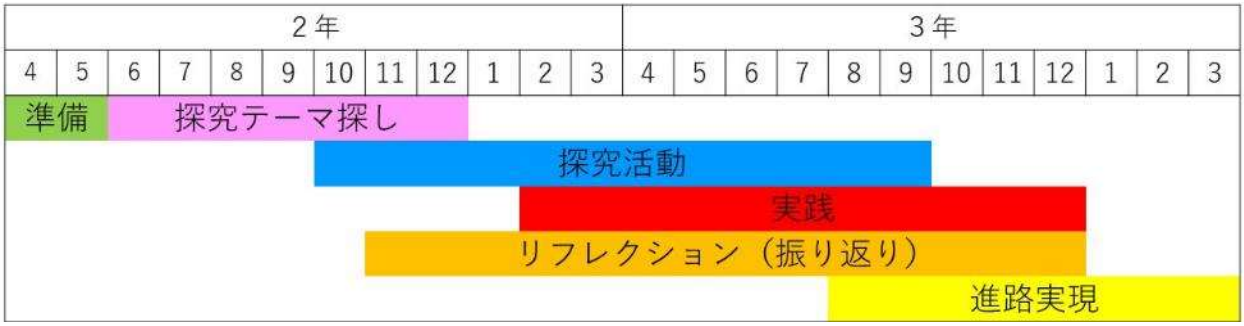
実習を終え、貢献できたことがあるかと考えると分からないけど、実習の時に行っていた掃除などは地域の園児の環境を綺麗に保つことができたということではないかと思います。このように誰かのためを思って行動したことは地域に貢献したことだと思います。

今後の地域との関わり

私は地元を離れ保育のことを学びます。短大卒業後は地元に戻ってきて、学んだことを生かした保育をしたいと思っています。また、短大の二年間で地元のことを考えて保育の課題を解決できるようにしたいです。

8　地域探究活動

普通科探究コースの学校設定科目で地域や身の回りの課題、関心ごとなどからテーマを設定し、立てた問に対する実践を行う活動である。２年生のテーマ設定に至るまでは SDGs や専門家の話を聞いたり、フィールドワークしたりしながら決めていく。テーマが決定したら、課題解決のための実践を行い、さらにそれを振り返ることで探究のサイクルを回していく。



普通科探究コース２・３年生 67 名が対象に取り組んだ。身の回りや地域課題から問を見つけ、テーマ設定を行いプロジェクト化し、２０プロジェクトが実践している。活動の際は、多様な人々、機関、団体との協働している。グローカル学習成果発表会、高校生の全国サミットをはじめ県内外の高校生とオンラインで対話をする機会にも積極的に参加している。今年度は、オンライン海外研修や海外留学を考えていた生徒がカンボジアの起業でオンラインインターンを実践するなどコロナ禍でも可能な地域を考える上で海外とのつながりを持つ生徒が増えたことが顕著であった。

①全体計画

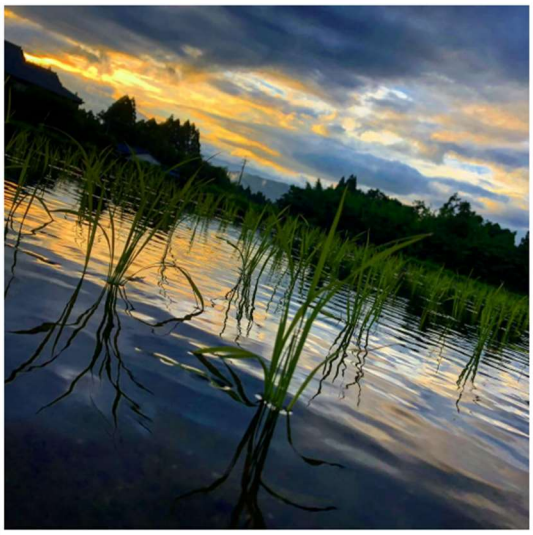
年	月	実施項目
２年	6	＜地域探究活動とは？＞ 使用教材：マイプロジェクト探究ガイドブック part.1 なぜ地域探究か。 マイプロジェクト全国サミット視聴（４０分）を見て意見発表。 ＊マイプロのための地域探究でも、地域のための地域探究でもない。自分を成長させるためにやる。 ・関係人口　・発表の仕方　・人を巻き込む　えびの市の魅力について探る。 コロナだからできること。地域活性化とは何か。アンケート（探究活動・進路について）
	7	自分グラフ作成　　SDG s について知る SDG s フォトコンテストの実施　　地域で活躍する人を知ろう ニシモロスタイルを読んで興味ある人を挙げ、調べる。 魅力化コア会議のメンバーについて知る。 地域で活躍する人に取材をしよう。取材対象の選定。 ヒーローインタビューの練習（大正大学山中先生）,取材開始 取材記事の作成方法・レイアウトについて
	9	取材記事作成期間・台湾への修学旅行プロデュース大会 取材記事完成・発表　　探究テーマ決定/起業家育成プロジェクトスタート

	10	実践①から実践②へ ・えびの未来カフェオンライン　・実践①の評価と新たな問を見つける
	11 3	実践②の評価と新たな問を見つける
3年	6 7	課題解決に向けた実践③～④　・ポスターセッション 地域探究活動　探究テーマ ・農創生プロジェクト　・共に学ぶ場づくり　・地域環境プロジェクト ・ｅスポーツで地域を元気に　・プレーパークプロジェクト　・ゆるスポーツ ・合宿誘致プロジェクト　・海外✖地域プロジェクト　・子育て支援プロジェクト ・グローカルリーダーズサミット　・吉都線活性化プロジェクトなど
	9 12	個人レポート作成　発表プレゼン作成
	2	グローカル学習成果発表会

②ＳＤＧｓフォトコンテスト発表会（2年）

＜事前準備＞	タブレットＰＣを準備する。（３６＋１台）　探究ファイル配付
１４：３５	教室にて全体説明･１人１台タブレット配付
１４：４５	教室移動
１５：１０	グループ別発表会(密にならないように注意する) タブレットＰＣで写真を表示しながら６人のグループ内で発表して､各班１人代表者を決定｡発表は１人２分以内で感想記入１分(付箋にアドバイスや感想を書いて発表者に渡す)。 アドバイスをもとに各自コメント欄の修正を行う。
１５：２５ 休憩	教室移動
１５：３５	代表者発表（２Ｂ教室） ＜プロジェクター使用＞ タブレット返却 ふりかえり・「地域活性化について」
１６：００	

テーマ設定に至るまでは、いくつかのワークを行う。一つは、SDGs を切り口に地域の気になる写真を撮影して下記のようにまとめる。これをグループやクラスで共有することでテーマ設定のきっかけとする。



タイトル	変わっていく田植えの時期
関連するＳＤＧｓの目標	気候変動に具体的な対策を
コメント	私の祖父はお米を育てています。しかし、最近気候変動の影響で気温の変化が大きく、急な雨や台風により昨年はお米の収穫量が減少しています。また、気温の上昇により田植えの時期が変わってきているようです。この状況が続けば、将来思うようにお米の収穫ができなくなり、今私たちが食べているような美味しいヒノヒカリにも影響が出てくる可能性があります。もしかすると食べられなくなるかもしれません。未来の世代のためにも、えびの市のヒノヒカリを食べてもらいたい！いつまでもこの風景を残したい！気候変動を食い止めたい！という強い思いがあり、この写真を撮りました。
２年Ｂ組　30番　氏名　宮原　和天	

③対話を用いた授業「ゆたかさとは？」

地域探究を実践する 3 年生を対象に宮崎県総合政策課とコラボして県の「ゆたかさ指標」を用いた対話ワークの授業を実践した。生徒たちは実践の中から様々なことを述べておりこれまでの活動のふりかえりや新たな視点で考える貴重な機会となった。

実施日時	令和２年９月１６日（水）　６～７校時	指 導 者	梅北　瑞輝
指導学級	３年Ｂ組（生徒数３１名）	指導教室	多目的ホール
教科・科目	地域探究活動	単元名	“ゆたかさ”とは？
本時の目標	１）前時のゆたかさ指標について、それぞれ考えていることをクラス全体で共有する ２）ワールドカフェ（対話）により、自由に質問、語り合うことを実践から学ぶ ３）他者のテーマ（考え方）を知ることにより、視点を増やし、より深く考える		
３つの観点別学習状況の評価　①知識・技能　②思考・判断・表現　③主体的学習に取り組む態度			

段階	学習内容	学習活動	指導上の留意点
導入 (3 分)	○ゆたかさ指標について ○ワールドカフェについて	○ゆたかさ指標の講義を受けて考えたことや感じていることなどフリーで発表する。 ○ワールドカフェの説明を聞く。	○ゆたかさ指標について再確認する。 ○アイデアは、人がオープンに会話を行い、自由にネットワークを築くことのできる『カフェ』のような空間でこそ創られること、ワールドカフェのルールについて説明する。
展開 (39 分)	ワールドカフェテーマ 「私の考える“ゆたかさ”」	１ターム目（13 分） ①4 人グループで１人ずつ、自分の考える“ゆたかさ“について、地域探究の経験をふまえて共有する。 ②共有されたテーマについて質問、回答をする。 ③それぞれのテーマについて、すぐに実践できることを語り合う。 2～3 ターム目（各 13 分） ④グループに一人残り、残りのメンバーは他のグループへ移動する。 ⑤グループに残ったメンバーが１ターム目の内容について新たなメンバーに共有する。 ⑥新たに加わったメンバーも前のグループで話した内容を共有する。 ⑦対話を通して改めて考えた“ゆたかさ”についてそれぞれ発表する。	○テーマについて説明をする。その際、話すポイントなどを簡単に示す。 ○1 ターム目の進め方について説明し、ワールドカフェについて再度確認をする。 ○新たなグループを作る際は、前のグループとメンバーが重ならないよう指示する。 ○２・3 ターム目の進め方について説明する。
ま　と め (8 分)	○今回の学びについて全体共有する。(5 分) ○ワークシート作成（3 分）	○全体共有したことについて発表する。 ○今回の学びを記録する。	○全体共有したい内容について発表を促す。 2～3 名 ○ワークシートに記録をするよう指示する。 ○本時の講評と次回に向けた指示を行う。

④ハイブリッド型探究

昨年度３月より企画・実践する予定であったことが全てキャンセルとなり実践を中心とした探究活動を進めていく上でどのように修正をしていくかが課題であった。そこで、学校全体のチャレンジとしてオンライン面談やオンライン授業の試験運用をスタートさせた。地域探究についても２・３年生それぞれで１コマずつ実施し「今できることは何か？」をテーマに対話の時間をつくり生徒たちに委ねて以降、オンラインを活用した探究活動が一気に進んでいった。

例えば、３年生の女子生徒の一人は当初インバウンドを想定したえびの観光ツアーを計画していた。当然ながらこの企画はできなくなり、次のアクションをどうするべきか考える中で選択したのはオンラインで海外企業へインターンすることであった。これは、カンボジアで日本商品を展開する企業で行ったもので休校期間中、探究の時間を使って活動を行った。３か月間企業での業務にあたる中で「地域のものを海外へ発信したい」と社員向けに地域の魅力についてプレゼンを行い焼き芋の販売を提案。それが採用され、現在プノンペンやバンコクで販売されている。このようにオンラインを活用した探究は、高校の枠を超えて協働し進めていく新たな事例となっている。

探究オンライン授業

カンボジア研修

ラオス研修

⑤探究の自走

　また、ハイブリッド型の取り組みが広がったことによりコロナ禍にありながら生徒たちの自走も変化した。例えば、探究の時間に専門家の話を聞きたいとなれば直接足を運ばなくても Zoom でつなぎレクチャーを受けたり、プレゼンをしてフィードバックをもらったりするなどこれまでにない取り組みが見られるようになった。これに加えて通常の活動もできるようになると、オンラインとオフラインを使い分けた実践が見られるようになった。

起業家プロジェクト

専門家との意見交換

地域医療ＩＰＥ

自然で遊ぶプレーパーク
～子どもの心と体を育てる～

飯野高等学校　3年　竹之内深百　吉野朱華　栗坂太陽　辻夏輝

子どもたちのあそび場『プレーパーク』を作る活動をしています。プレーパークとは『自分の責任で自由にあそぶ』をモットーにしているあそび場のことです。近年、外であそぶ子どもの数は減少しています。そこで私たちは、えびの市の自然の良さをいかし、子どもたちがもっと自然に触れ、やりたいことを自由にできる環境を作りたいと思い、2年前からこの活動をしています。

▷プレーパークＱ＆Ａ

Ｑ１.プレーパークとは？

Ａ１.自分の責任で自由に遊ぶことをモットーにしている場です。そして、ルールに縛られず、やりたいことができる場所です。

Ｑ２プレーパークで遊ぶことのメリットは？

Ａ２.自由にできる環境で遊ぶことで、自分がしたかったことに気づく、つまり自分の心の声に気づくことができます。幼少期のこの経験から、その子自身の自己肯定感が高まっていきます。自己肯定感はこれからの日本を作っていく子どもたちにとってとても大切な感情です。

Ｑ３危なくないの？

Ａ３通常の公園よりかは危ないです。しかし、痛みを自分で感じることで、生きていくうえで重要な情動を育てることができます。そうはいっても、命に係わるものや年齢によっては大変な事故になりそうなものはプレーパークのスタッフがあらかじめとりのぞいています。これも大切な仕事です。

▷開催までの流れ

～第一回参考例～

地域おこし協力隊の方へプレゼンテーション

↓

地元の方々に向けプレゼンテーション

えびの市役所「観光商工課」に協力してもらえることに！
道具や必要なものの提供をしてくださる方との出会いも！

↓

知識固め

プレーパーカー養成講座に参加
プレーパークを開催者のインタビュー
プレーパークについての知識をより確実なものに

↓

遊びの内容の決定

↓

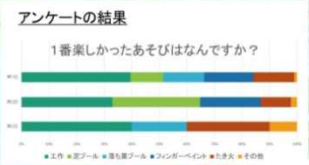
遊びの作成

↓

前日準備

↓

第１回　プレーパーク開催(2019．05．05)



1位は3回連続で工作！！

お母さん・お父さん達からの感想

感想

- またしてほしい！！
- 自然の中であそべてよかった！
- 自然の中であそぶチャンスがあまりないので来れて良かった！
- お兄ちゃんお姉ちゃんたちがあそんでくれて親もほっこりした！

▷改善点

大人に頼りすぎた(第１回)

高校生だけの力で(第２回)

▷これまでの活動内容

- プレーパーク開催　計３回
- 地域の講演会でのプレゼンテーション
- 学校でのプレーパーク説明会
- ZOOMでのお話会（青森の大学生・岩手の高校生）
- 開催地「八幡丘公園」についてのワークショップ
- 森林教室
- チェーンソー講座、ユンボ運転講座
- 雑誌「BE-PAL」のイベントのお手伝い
- ニュージーランドへの短期留学
- 講演会参加（藤原さん）
- プレーワーカー養成講座　計５回
- 東京視察
- マイプロジェクトアワード２年連続九州大会出場

▷NEXTアクション

コロナで延期

~~7月25日　第4回プレーパーク~~
~~8月09日　第5回プレーパーク~~
~~8月23日　第6回プレーパーク~~
~~プレーパークプレゼンツ~~
「子どもにしかつくれないもの」

7月25日　WAKUWAKU ZOOM①
8月23日　WAKUWAKU ZOOM②
○動画配信
お兄さん・お姉さんといっしょ
「コロナが流行るいま、
　高校生たちは何を思うのか」
○熊本支援

▷大事にしていきたいこと

①まず自分たちが1番に楽しむ
②感謝を忘れない
③常にチャレンジ
④子どもの立場で考える

▷こだわり

地域と一緒につくる

えびのの自然を活かす

Glocal Leaders Summit

竹之内愛佳　中村千笑理
益山　綾　涌水葉月

Glocal Leaders Summitとは

「グローカル」な視点で活動する高校生、大学生、高校教諭、行政職員、民間企業、NPOなど様々なカテゴリーの方々が一堂に会し越境的な学びあいの場を作ることで、新たなチャレンジを創出するもの

えびの市の課題

人口減少、観光客減少、少子高齢化、商店街老朽化

＋

えびの市の魅力

昔ながらの京町温泉郷、農畜産物、豊かな自然、九州二位の道の駅、豊かな水源、広大な土地、地元の方々の温かさ

＋

経験・動機

広島県大崎海星高校で開催されたSCHシンポジウムに参加し、様々な環境で生活している方々とセッションを行ったことにより、自分自身の視野の広がりを感じることができ、様々な分野の方々に出会いたい、機会を作りたいと思った

目的

・県内違う環境に住む高校生や大人の方が一緒になって討論することで視野を広げられ、自分の可能性に気づいてもらいたい。
・えびの市に来ていただき、実際に見て・聞いて・感じてもらうことで、えびのの魅力をより多くの人に発信したい。

研究方法

第一回GLS

２０１９年８月　SCHシンポジウム参加
⇓
９月　第一回GLS企画開始
⇓
１０月　日程決め
⇓
１１月　募集開始
⇓
１１月　文部科学省企画書提出
⇓
１２月　市役所食材提供願
⇓
１２月　京町温泉卿無料入浴券発行の願い
⇓
１月ラジオ出演
⇓
１月１０日～１２日実施

第二回GLS

２０２０年１月　第二回夏開催決定
⇓
２月　内容決め
⇓
３月　コロナウイルス拡大
⇓
４月　オンライン開催決定
⇓
５月
⇓
６月　ホームページ作成
⇓
７月　内容決定
⇓
７月　SNSでの募集
⇓
８月１日　オンライン実施

参加者・参加校

文部科学省・九州大学・宮崎大学・上越教育大学院・宮崎大学・伊佐市地域おこし協力隊・宮崎キャリア教育支援センター・ＮＰＯ法人牟岐キャリアサポート・(株)ベネッセコーポレーション・新富町地域おこし協力隊・立命館宇治高校(京都)・筑波大付属(東京)・渋谷高校(大阪)・山北高校(神奈川)・飯南高校(三重)・和気閑谷(岡山)・富山東高校（富山）・生野高校（兵庫）・国分高校（鹿児島）・浮羽究真館高校（福岡）・純心女子高校（鹿児島）・大口高校（鹿児島）・川辺高校（鹿児島）・妻高校（宮崎）・宮崎北高校（宮崎）・五ヶ瀬中等教育学校（宮崎）・木庄高校（宮崎）・大宮高校（宮崎）・馬頭高校（栃木）・窪川高校（高知）・APEえびの・浜田市教育委員会（島根）・大阪城南短期大学（大阪）

実践

第一回GLS

１日目
13時　GLOUCAL成果発表会参加
18時　高校生交流会（カレー作り）
２日目
9時　アイスブレイキング
テーマ募集
10時　各学校紹介
12時　飯野高校ツアー
13時　講座
15時　えびの市ツアー
探究活動見学
18時　情報交換会
３日目
9時　アイスブレイク
10時　ワールドカフェ
11時　NEXT　ACTION

第二回GLS

14時　オンライン開始
14時20分　アイスブレイク
14時30分　意見交換
15時10分　全体共有
15時20分　感想・意見
15時55分　集合写真・閉会

・第一回GLSワールドカフェ
「虐待」「グローカルとは」
「AIの未来」「地域について」
・第二回GLS意見交換
コロナ禍の中で私たちにできることは何か

第一回GLSえびの市ツアー
真幸駅幸せの鐘
地域探究活動見学
空き家プロジェクト、ゆるスポ

考察

第一回GLS

・県内外違う環境に住む、高校生～社会人の方々と話し合い交流することで新しい視点から物事を考え、意見を述べることができた。
・県内外多くの方と話し合いを行うことで交流でき、いろんな分野でのつながりを持つことができた
・
反省点
・役割分担がしっかりとできず、遅れをとることがあった。

第二回GLS

・オンライン開催だったのでオフラインよりも参加しやすく、コロナの影響で大人数で集まらずに開催できた。
・県外からの参加者を募ることで県外の状況もオンラインを通し手知ることもできた。

反省点
・オンラインで行ったが一か所で大人数が行ったことで回りが聞き取りにくくなってしまった。
・途中でオンラインが切れること多くあった。
・グループリーダーのまわしが悪いことが多くあり、オンライン中に沈黙の時間が多く流れた。

SDGs

教育関係者の方と地域探求などについて話し合うことができ、そこから学校教育の向上を図ることができる。

地域課題について、県内外の方々と討論することで今まで気づくことのできなかった自分の地域の魅力や課題に出会い、地域活性化につなげていくことができる。

高校生～社会人の方々が一堂に会するサミットであるので参加するすべての人が同じ立場に立ち今、日本で起きている事柄について話し合うことができる。

普段、関わることのできない方々と繋がることができるのでサミット後にアクションを起こす際、様々な方と協力できる。

地域×海外プロジェクト～世界をより身近に～

Online Internship in Cambodia

飯野高校
溝口梓

・英語を話す実践の場が欲しい
・海外に触れたい　携わりたい、知りたい
・地元の魅力発信、地域活性化

Q.オンライン海外インターンとは

・Tiger Movというアジア、アフリカ、南米など世界４２か国、約３００件以上の多種多様で実践的なビジネスイターンを提供する企業がしている プロジェクト。
・アウトプットにこだわり世界中のリアルな課題に自宅から挑戦でき、さらにリモートで成果を出す能力を磨く新しい実践の場

DAISHIN TRADING
➡カンボジア全土に日本食材、飲料・酒類を販売する食品飲料卸会社

・２０２０年９月で７周年
・日本をはじめとする世界８か国から随時900アイテム以上取り揃え、日本の美味しい商品（冷凍・冷蔵・ドライ）をカンボジアに毎月輸入

TASK

・焼酎カタログ作成
・サンプルページ作成
・案件まとめ作成
・鮮魚　英語翻訳
・フリーランスサイト作成
・セブンイレブン提出書類作成
・ミャンマー市場調査
・Camboinfo記事記載
・キャビア値段調査
・ビジネスメール作成
・値付け
・Facebook Live

学び

・コミュニケーション能力
・視野の広がり
・英語力　・達成感
・スキルアップ　・責任感
・ビジネスマナー

Vison

地元えびの市の特産品をカンボジアに！！！

Next Action

①カンボジアのインターン先　(DAISHIN)に企画提案
②地元の企業の方とコンタクト
③カンボジアで販売

＃せかい部

・文部科学省が2013年10月より開始した「トビタテ！留学JAPAN」
・高校生による高校生のための「知らない世界をシェアする」ソーシャル部活動。
・海外経験者と未経験者をSNSで繋ぎ世界中で得た発見、魅力などを発見する。

目的

・海外に興味はあるけれど一歩踏み出せない子をバックアップ
・海外経験者を増やすために活動中（最終目的）
・ネット上の運営　(Instagram/Twitter)

実践

第一回＃せかい部開催　海外経験者の話を聞こう！！！

日時：７月１６日(木)　18時～19時
参加人数：１７名
海外経験者：宮崎大学助教、宮崎大学生２名
ミャンマー　「ヒ素の研究」
オランダ　「チーズの研究」

学び

・参加者の感想
外国についての考え方が変わり、気づかないことに気づくことができ、また、行ってみたい国が増えた
・聞き手として　（自分）
留学目的、異文化、留学前と後の自分の変化など聞くことによって留学したい！という気持ちが高まった。
・運営側として
一人での企画・開催は準備や進行を全て一人でしなければならない。
But　得られたものは独り占めできる
➡臨機応変に対応する力、周囲への配慮
相手とのコンタクト、計画性

Next Action

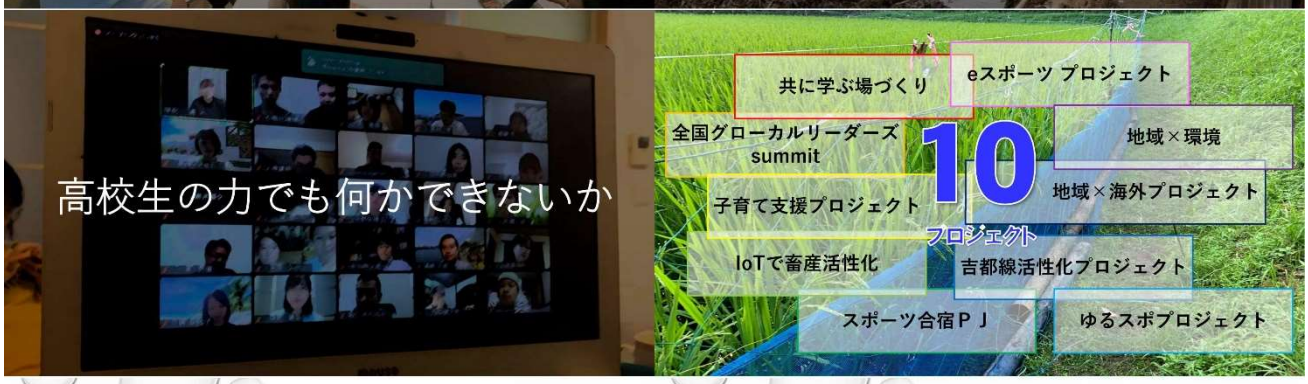
感想用紙の行きたい国のところで総計が多かった国の日本人留学生にコンタクトをとり第２回＃せかい部を開催！

4 質の高い教育をみんなに

学校では学べないことを学ぶことができ、さらに仲間と共有し合うことができる。

17 パートナーシップで目標を達成しよう

「インターン」や「海外留学」は、様々な人と協力し、目標を達成することができる。



ゴミアートで地域を美しく

えびの市の現状

・不法投棄が増加している

・ゴミの分別ができていない

深刻化

えびの市民はこの現状に気づいていない

この問題を知ってもらうために、、、

ゴミについて調べる

ゴミアートの存在を知り
自分たちでやってみようと考えた

IOTで畜産活性化

3－B
中村心　平山祥　栗坂太陽
下永雅也　辻夏輝

宮崎牛の現状

- 農家の人手不足
- 知名度が低い
- 体調管理が難しい

(転んだら起き上がれない)

解決を目指して

IoTを活用して解決を図る

↓

知識不足

↓

協力をお願いする
【Cisco Systems, Inc.・鳥羽商船】

今後の展望

カメラを設置して
有効性の検証をする
結果をもとに
ドローンをどうするか検討する

eスポーツで地域活性化

← IOTで畜産活性化　スポーツ合宿誘致計画 →

eスポーツで地域活性化

地域の課題【若者が県外へ流出・コロナによるイベントの減少】

地域で若者を中心に楽しめる活気のあるイベントを行いたいと考えた。そこで若者に人気があり、オンラインでイベントが開催できるeスポーツを利用した大会を行おうと考えました。

【主な活動】
宮崎県・福岡県eスポーツ協会との話し合い。
えびの市役所企画課との話し合い。小中学校に向けたアンケート。

学んだこと

この活動を通して私たちは、新型コロナウイルスという壁に直面しました。これに対してすぐに諦めるのではなく沢山の解決策を模索することによって周りの人が協力してくれたり良い方向に活動が進んでいくということを学びました。

【お知らせ】

2月にオンラインで
eスポーツ大会を
行うことに決定
ゲーム内容
ウイニングイレブン

スポーツ合宿誘致計画

← eスポーツで地域活性化　ゆるスポーツ →

スポーツ合宿誘致計画

●小出水　鈴風　●池田　瞳　●榎田　陽菜

きっかけ

- 温泉があるのにあまり有名じゃない
- アスリートチームには一定のファンがいる
- えびので合宿があれば、アスリートや追っかけと呼ばれる人たちがえびのを知ってくれるのでは？県内外から人を呼び込めるのではないか？
- 温泉の効能がスポーツ後に最適だから京町温泉郷に泊まってもらう

そんなときに

- ちょうど元プロバレーボール選手とお話しする機会が！！
- 事情を説明し、細かい質問にも快く応じてもらい、有力な情報を数多くゲット！！
- さあ、得た情報をもとに計画を進めていくぞ！

新型コロナウイルス
感染拡大により安倍首相、
全国の学校に休校要請
（え？どうするの？）

コロナ禍により

- 休校期間中・・・ちっとも進まない、進められない
- 休校が明けても、新型コロナウイルス感染拡大防止のため県をまたぐ移動に制限がかかる
（どうすればいいかわからない）

そうこうしているうちに

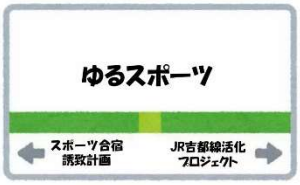
- 先生からチーム内での連携、確実な目標が持てているのかと指摘が。
- 新型コロナウイルス感染拡大第二波
- ポスター制作や、研究の目的レポート、受験などが重なり結局何もできない
- 第3波到到来

学んだこと

- やりたいことがあったらすぐに行動に移す
- わからないことがあったら大人に聞く
- 自分たちだけでできないと判断したら周りを頼る

頼ってね

私たちみたいに
なるな！！！！



ご当地
ゆるスポーツ

～かっどせん～

青木　陽依
吉野　朱華

ゆるスポーツとは

かっどせん！

年齢・性別・経験に関わらず
だれもが楽しめる新スポーツ！

GLSでの発表

GLSの中で全国の人に
向けてゆるスポーツの説明と体験会をやらせてもらいました。
全盲の方にも体験してもらうことができ、よい機会となりました！！

イベントの様子

飯野高校生を対象に小規模で開催しました。

JR吉都線活性化プロジェクト

ゆるスポーツ ← → 共に学ぶ場づくり

～この活動を通して学んだこと～

- 自分たちがやった分だけ結果につながる。
- 協力してくださる方の存在の大きさ。
- 臨機応変に動くことの大切さ。

JR吉都線活性化プロジェクト

～「きっとハロウィン」による地域活性化について～

川副佑馬　前田健太

皆さんJR吉都線について詳しく知っていますか？

吉都線の抱える問題

1日の利用者数

465人！
赤字運営…

1日の発車本数

6本減少…

その多くが高校生と高齢者
観光目的の利用者が少ない…

そこで私たちは子供たちを対象にしたイベントを実施することで吉都線を子供にも利用してもらおうと考えました！

JR九州が減便を発表した主な在来線

路線（区間）	1日あたり運行本数
①唐津線(多久―佐賀)	46本 → 40
②日豊線(大分―大在)	92本 → 79
③久大線(大分―豊後国分)	69本 → 60
④吉都線（吉松―都城）	22本 → 16
⑤（八代―人吉）	30本 → 24
⑥肥薩線（人吉―吉松）	10本 → 6
⑦（吉松―隼人）	31本 → 23
⑧日南線（志布志―南郷）	20本 → 16

話題性があり子供にも
人気なハロウィン

地域の新しい魅力
吉都線による観光

↓

これが吉都線とハロウィンを組み合わせた
「きっとハロウィン」です！

当日の様子です

共に学ぶ場づくり

JR吉都線活性化プロジェクト ← → 子育て支援サークル

自分たちが学んだこと

子供たちの元気は想定外にすごい！

↓

子どもたちの元気 → 地域の活性化 → イベントの開催

循環できるので持続可能な活性化が可能！

アクション

将来

地域貢献

自分の夢

➡えびの市の現状

勉強 ✕

交流 ✕

飯野小学校2年生にアンケート

①宿題を誰としますか？

A. ひとり 50％ 友達 30％ その他 20％

②宿題にどれくらいの時間がかかりますか？

A. 30分 60％ 1時間 30％ その他10％

仮説

①友達の家

保護者がいる
安心する

②その他の環境

児童クラブ
宿題ができる環境
塾

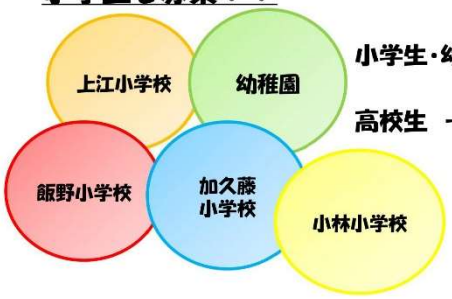
つまり、この二つの場所以外にできる環境が少ない！！

アクション

カフェ×勉強×交流

安心して勉強・交流ができる場所

小学生を募集！！



小学生・幼稚園生 → 6人

高校生 → 3人

小学生と学ぶ

飯野高校地域探究活動

7月19日(日)
開催決定

タイムスケジュール

14：00	飯野高校　集合
14：30	pepe　到着
14：30～14：40	アイスブレーキング
14：50～15：05	なぞなぞ・勉強会
15：15～16：00	ポスター作り
16：10～16：30	レクリエーション
16：30	pepe　出発
17：00	飯野高校　解散

持ってくるもの

①宿題(終わってないものがあれば…)
②色鉛筆やクーピー(おうちにあったら…)
③水筒、傘

※多少時間にズレがあるかもしれません。

アイスブレーキングの様子

どうしたら
高くできるかな？

相手のチームは
どうしているかな…

勉強(宿題)・交流の時間

年代を超えて、教えあう姿

僕はね、今こんなところを勉強しているよ～

ポスター作り(カフェpepe)

色塗りをしたよ。何色で塗ろうかな

カフェpepeは、どんな感じかなぁ～

登下校の様子

×学校からカフェに向かうとき…

・雷がなってしまった。
　→雨天時の場合を想定していなかった。

○カフェから学校に帰るとき…

・みんなで仲良くお話をしながら帰れた。
　→安全を確認しながら、楽しく帰れた。

活動して学んだこと

・一人一人の対応は、難しかった。
　→自分のやりたいことが他にあって、まとめるのが難しかった。
・やる気の引き出し方
　→声かけ、内容の工夫
・臨機応変に対応できる力
　→色んな子ども達に話しかけられても、丁寧に聞き取っていくこと。
・小学生とコミュニケーションをとる難しさ。
　→目線を合わせて、しっかり話を聞くこと。

自分たちにどんな変化があったか

・観察力や対応力を備える必要がある。
　→周りに目を配っていけること

・多くの視点から物事を見つめていく力が大切と感じた。
　→一つの方向性だけではなく、あらゆる視点から見ていく。

・自分たちの立場だけでなく、相手の立場も考える。
　→年齢も違うので、考え方や感じ方も異なるからこそ、相手の立場になって考えていくことが重要。

最後に…

少人数での実施となったけど、
地域の特性を踏まえ、「共に学ぶ場づくり」の活動は、
貴重な体験となり、
今後も地域のためや子ども達のために
自分たちが力になりたいという気持ちが高まった！

QUESTION

周りの手助けなく一人で物事を成し遂げることってできるのでしょうか？

おもちゃランド

おもちゃを使って金銭感覚や英語などの教育を学ぶイベント

きっかけ
①学生や幼稚園生を対象としたイベントが少ない
②教育を学ぶイベントが少ない

着目

「私たちが作ろう！！！」

1、他県の活動を調査

参考にしたいイベントの事務局　@福岡県糸島市
→インタビューを行うため実際に訪問

調査内容
・どのくらいの規模で何人のボランティアが必要なのか。
・具体的な内容
・残ったおもちゃの保管は？
・今まで開催した中で起きたトラブル。対処法。

2、イベント企画

ポイントの貯め方
・お仕事（査定、値付け、陳列、会計）
・おもちゃを持ってくる
・ブース体験

イベント内容
◎使わなくなったおもちゃでポイントゲット!
↓
◎楽しいブースでポイントを貯めよう！
↓
◎「ポイント」好きなおもちゃをゲット！
↓
◎オークションで特別なおもちゃをゲット！

3、実践までの準備

先輩や地域の方々にイベントに対する意見をもらう
↓
生徒、児童向けポスター作成
↓
おもちゃ寄付ポスター
↓
おもちゃ収集　約100個
↓
イベント日時の掲示用ポスター
↓
会場配置図　作成

イベント開催日　3月14日　のはずが。

新型コロナウイルス感染拡大防止
のためイベント中止

臨時休校に・・・。

地域＆自分について見つめなおす時間が増えた。

＋

外出自粛により我が子に対するストレス
→虐待の増加

「私たちに今できることは何だろうか」

おもちゃを届けようPJ

自粛期間、子供たちに何をして遊ばせようかな？

子供たちに[illegible]ちゃは必要[illegible]

・母親と一緒に作れる[illegible]
・自分一人でも作れる工[illegible]

自分で絵を描くパズル
[illegible]やビー玉：玉転がし

・もしかしたら、いす[illegible]ってしまうのでは。
・他人が使用したもの[illegible]ち衛生的に、、、。
・ペットボトルの切り口が危険だ。

危険性・清潔面

実践までに・・・。
①打ち合せ
②おもちゃを別ける
③おもちゃの消毒
④メッセージカード作成

○GOOD　POINT

・子供たちや保護者のことを考え、率先して活動できた。
・ボランティア生など多くの協力があった。

○BAD　POINT

・おもちゃの対象年齢や条件を絞るべきだった。
・活動後の相手側の意見を聞けていない。

人吉支援ランドセルPJ

7月に隣町の熊本県人吉市が大雨による
甚大な被害を受けました。

・子供たちにとって勉強する環境は大切。
・子供たちが元気よく学校へ行く姿を取り戻したい。
学習するうえで必要なランドセルや文房具を募集し寄付する活動

活動の様子

ランドセルカバーの作成

文房具の仕分け

メッセージカードの作成

当日の様子

○GOOD POINT

・様々な方々が協力してくれた。
・文房具やランドセルの寄付がたくさんあった。
・県をまたいで貢献できた。
・マスクも一緒に提供することでコロナ感染症の予防もできる。

○BAD POINT

・実践までの期間が短かったため
計画があまりできていなかった。
・ボランティア生へ指示が行き届いていなかった。

活動を通して・・・。

・地域や他者とのつながりを持つことで連携、協力できる。
協働、協同

・協力してくれる人の存在の大きさ
協力、共同、協働

・子育ては一人ではなく「地域で」取り組むもの
協力、共感

様々な力が身につく

・イベント開催に向けた企画力

・多くの人と関わる中でのコミュニケーション力

・変容する社会への対応力

・新たなことへの創造力

私たちは誰でも、周りの人たちのちょっとした気遣いや見守りのなかで、
支 え・支えられながら暮らしています。

協働　共感　協力

GlocalLeadersSummit

竹之内愛佳　中村千笑理　益山綾　涌水葉月

GLOCAI LEADERS SUMMIT

えびの市の現状

人口減少
少子高齢化
交通手段(電車等)の減便

GLSをすることによって

実際に呼び込み参加者にえびの
の魅力を感じ取ってもらう
↓
インバウンド獲得につながる

えびの市から全国を活性化

実践までの過程

計画にあたっての調査活動

・スイッチバッグの時間

・食材

・京町温泉郷

・場所確認

計画

1日目

13時　GLOUCAL成果発表会参加
18時　高校生交流会
（カレー作り）

2日目

9時　アイスブレイキング
テーマ募集
10時　各学校紹介
12時　飯野高校ツアー
13時　講座
15時　えびの市ツアー
探究活動見学
18時　情報交換会

3日目

9時　アイスブレイク
10時　ワールドカフェ
11時　NEXT　ACTION

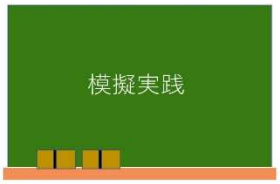
実践準備

・文部科学省へ企画書提出

・ラジオ出演

・市役所に食材、利用施設提供の依頼

・京町温泉への協力依頼
（宿泊場所、チケット）



第一回　GlocalLeadersSummit

日時：1月10日～1月12日

1日目
13：00　GLOUCAL成果発表会参加
18：00　高校生交流会（カレー作り）
2日目
9：00　アイスブレイキング
テーマ募集
10：00　各学校紹介
12：00　飯野高校ツアー
13：00　講座
15：00　えびの市ツアー
探究活動見学
18：00　情報交換会
3日目
9：00　アイスブレイク
10：00　ワールドカフェ
11：00　NEXT　ACTION

AIについて

未来カフェ

事例発表

・飯野高校
・立命館宇治高校
・飯南高校
・大崎海星高校
・筑波大付属高校
など

市内ツアー

真幸駅

ゆるスポ体験

ワールドカフェ

・地域探求について

・児童虐待について

・学校の校則について

・AIについて

活動結果

新しい視点からのものの見方を学ぶ場

主体的に意見を述べる場

人と人のつなぐ場

2月２０日
第3回 Glocal Leaders Summit
をオンラインで開催

３つの“場”の提供

活動を通して

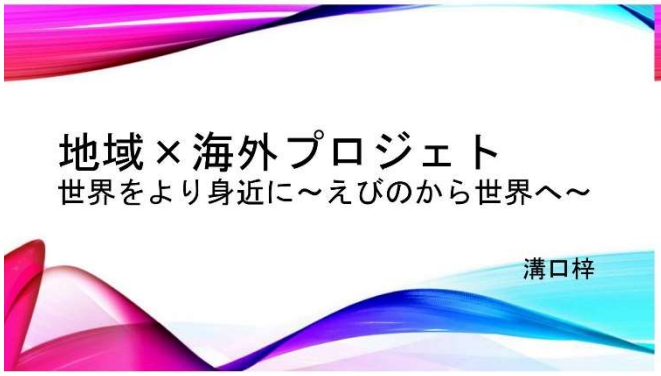
計画力

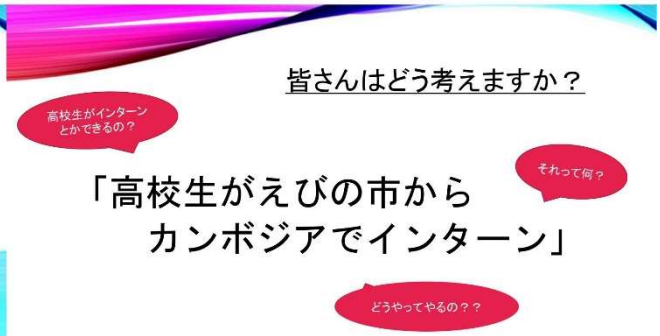
実現力

コミュニケーション力

NEXT ACTION

８月１日　第二回グローカルリーダーズサミットを
オンラインで開催





・英語を使って何かしたい

・地元の魅力発信、地域活性化

外国人向け観光ツアー

しかし・・・

一人で企画・開催➡想像以上に大変

新型コロナウイルス

観光ツアー開催
海外留学
➪中止

オンライン海外インターン？？？

Tiger Mov

世界42か国、約300件以上の
ビジネスインターンを提供する会社

タイガーモブ
Tiger Mov, Inc.

カンボジア　日本食飲料卸会社

・英語を話す実践の場
・えびの市の特産品（ひのひかり、焼酎、水 etc…）を
カンボジアへ進出　➡地域活性化

仕事内容

焼酎カタログ作成

Camboinfo記事作成

オンライン上で働くことのメリット

・海外の企業に携われる
・視野の広がり
・人との接し方
・ビジネスマナー
・大人との出会い
・将来のキャリア
・価値観の違い
・時間を意識

今後の展望

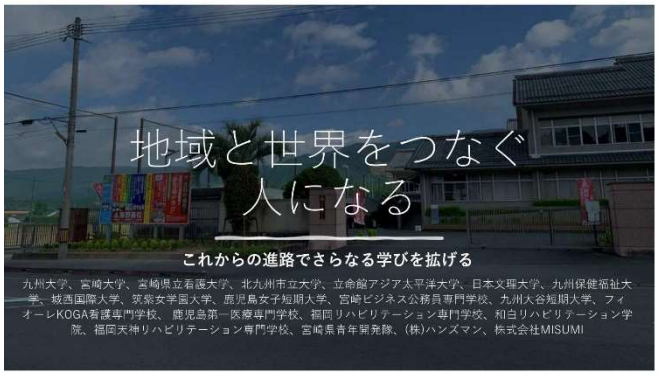
～えびの市のインバウンド増加～

➡観光学について学びを深める

➡地域活性化につなげる

地域から世界へ

地域から



9　地域支援活動

「地域支援活動」　３年生　生活文化科　週４時間（※１・２年生→家庭科専門科目内で実施）

２年生までは、専門科目の中ですべての生徒が家庭科の専門力を活かしたすべてのプロジェクトに携わり、多様な人と関わりながら実践から学びをえる。この学びを３年生で「地域支援活動」と位置付ける課題研究の中で活かして、自らプロジェクトをたちあげ実践を行った。内容としては、５～10 月に週２時間の施設実習を行い専門教科の学びから課題解決をはかる活動とした。休校期間中には不足するマスクを製作し、実習先などに配布するなど高校で身につけたスキルを地域へアウトプウとする活動を実践に移すことができた。えびの産業文化祭でも規模を縮小して地域特産物の開発・販売の実践を行った。

①全体計画

年	月	実施項目
2		科目名 〇フードデザイン　→ＳＡＰと連携した地域特産物開発 〇ファッション造形基礎　→子育て応援プロジェクト（小物作り） 〇発達と保育　→子育て応援プロジェクト(運動会企画) 〇生活美学　　→高齢者支援プロジェクト
3	6 10	地域実習①～⑩ グループ協議（目標設定）→実習 →振り返り（課題→解決策） ※事業所における課題から専門領域を活かした解決策の提案、実践
	9 12	個人レポート作成 発表プレゼン作成
	1	グローカル学習成果発表会

【連携・協力先※実績】えびの市子育て支援センター、えびのボランティアクラブ、えびの市立飯野小学校、えびの市立飯野中学校、えびの市立真幸小学校、ＪＡえびの市青年部、ＪＡえびの市女性部、えびの市出身プロモデル（増元美喜氏)、裏千家、えびの市 SAP 会議、えびの産業文化祭実行委員会、えびの市社会福祉協議会、飯野保育園、社会福祉法人慈愛会

②専門科目に組み込んだプログラム

家庭科の専門科目で地域を中心とした外部講師を招聘し、それぞれの科目に応じた講座を開いている。例えば、ファッション系科目ではファッションショーを企画しそのウォーキング指導をプロの専門家に依頼し行っている。今年度は大分県とオンラインでつないで実施するなどここでもハイブリッド型学習が行われている。このほか、地域の特産物を使ったメニュー開発をＪＡ婦人部やＳＡＰと協働して行ったり地域人材を専門科目にリンクさせた取り組みが日常となっている。

１年	茶道講座 手話講座 認知症サポーター養成講座 ＩＣＴ活用ファッション造形基礎 折り鶴プロジェクト はらぺこあおむし手袋製作 読み聞かせ会	
２年	kokoyade フィールドワーク 布製おもちゃづくり ビュッシュ・ド・ノエル製作 えびの市産業文化祭小物製作	
３年	保育所訪問活動 ウォーキング講座 ドレス製作 ファッションショー フラワーアレンジメント講座 福祉施設訪問活動 えびの市産業文化祭（開発商品販売）	

③地域特産物開発プロジェクト

えびの米の田植え、稲刈り	体験活動を通して、地域の特産品に関する理解を深めるとともに、「えびの市ならではの　特産品」の開発につなげる。 ６月下旬／１０月下旬に実施 小学生と高校生が合同で田植え、稲刈りを実施する。高校生はえびの米を活用した特産品の開発に取り組む。 場所：高校前の水田

④課題研究

専門科目で取り組んだことをアウトプットし地域の課題解決に役立てようと課題研究では、半年間の実習を行っている。これは地域で展開されている事業所で生活科学の視点から課題を見つけ、解決のための実践を行うものである。今年度も様々な取り組みが行われている。

Ｒ２　課題研究の展開について

授業内容（実習先）

〇ファッション分野（ヒューマン）‥‥検定対策、ヒューマンサービス関連の研究

〇フード分野（フード）‥‥検定対策、フード関係の研究（地域特産物の商品化プロジェクト）

〇保育分野　（教育関係）‥‥教材研究など実習先と関連した研究

⇩

分野	ファッション	フード	保育
授業内容	〇検定対策（希望者） 受験級の指導 〇研究活動（地域支援） お楽しみ会企画 小学生向けミシン教室 〇個別・グループ活動 コースターつくり 美容室でのプレゼント作り	〇検定対策（希望者） 受験級の指導 〇研究活動（地域支援） えびの産業祭り出店 グルメコンテスト出店 農産物の活用計画 お弁当作り講座 〇個別・グループ活動 ・学校菜園 ・スーパーのポップ作り ・飲食店のマスコット作り	〇教材研究 （実習先の課題・準備） 〇研究活動（地域支援） 子育て支援センター イベント企画 中学校出前講座 〇個別・グループ活動 ・保育園・幼稚園向けおもちゃつくりや壁かざり ・保育園児向け便利グッズ ・図書館へ大型絵本バック
授業展開	２年次 〇課題研究の説明、先輩の紹介 〇課題意識、目的意識調査、研究テーマ模索（ワークシート１）→後日、講座の発表 ３年次 〇テーマに沿った活動計画作成（ワークシート２） 〇材料費などまで含めた計画書作成　※検定受検者は作業も可 〇えびの市に出前講座の依頼（えびの市の現状、若者に期待すること）１ｈ 〇実習先でのマナーと心がけるべきこと　（ワークシート３） 〇事業所への挨拶、打ち合わせに向けての準備（ワークシート４） 〇実践計画（課題研究Ⅰ、Ⅱとの関連性）（ワークシート５） →ワークシートは５まで。		

実習においては、コロナ禍で活動が制限される事業所もあったが、自分たちに何ができるかと問をもって取り組んでいた。例えば、感染リスクを考えて外出ができなくなった福祉施設の高齢者に向けたファッションショーの企画やマスク・小物製作、ＳＡＰと連携して生産した地元野菜を使った料理やお菓子の開発など家庭科の専門力をフルに生かした取り組みの実践を行った。

生産した米粉を使用して制作したパンやお菓子

ＳＡＰと連携して校内で季節野菜を生産→地域メニューの開発

酢豚　　ピーマンを使ったソース

■生産野菜スイートコーン【アナグマ対策のための柵設置】

（棒の取付）

（柵取付）

（１段目の取付）

（２段目の取付）

昨年度当該授業において作付したスイートコーンについて、アナグマ被害によりほど全滅した。そのため、今回は、実がなる前に対策として柵を設置することとした。アナグマを見たことがないという生徒も多く、また鳥獣被害対策としてジビエについてもサポーターの立久井氏よりレクチャーを受けた。

■活動内容【誘引作業（カラーピーマン）】

（誘引作業）

非常に生長が著しいため、誘引作業を実施。

■活動内容【植え替え（カラーピーマン）】

（現状）

9 割の苗が水、肥料不足枯れてしまった。
残った苗の対策を実施。

各事業所での実習

ほうよう

ＲＩＺ

グループホームあおい

正一

飯野小学校

学びをアウトプット

昨年度
地域支援活動の学び

- 保　人との関わり
- 食　つながり
- 被　実践力
- 福　思いやり

受検している検定

- 技術検定　被服製作（1～4級）
- 技術検定　食物調理（1～4級）
- ビジネス文書実務検定（Word）
- 情報処理検定（Excel）
- 秘書実務検定

食物検定

4級

3級

2級

1級

被服検定

☆被服→巾着袋4級・洋服・和服3・2級

☆洋服1級・浴衣1級

情報処理検定3～2級

ビジネス検定3～1級

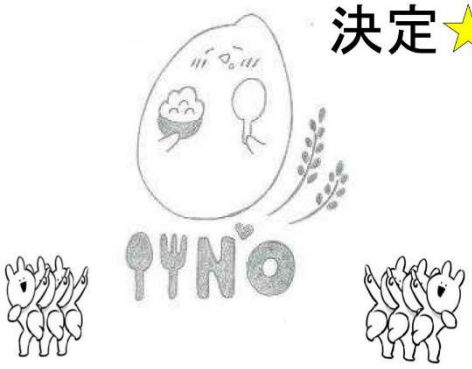
2年次の活動

「みやざき産業人財育成事業」

秀峰高校訪問

デザイン作成

決定★



「ケーブルハウス」

贈呈式
秀峰高校×飯野高校

実習内容

高校生と企業をつなぐ人財育成事業

於：JAえびの

ライスセンター見学　ライスセンターでの学びを発表　JA女性部会議参加

米の品評会　いちごのパック詰め　道の駅バイキング

みんなのよい食プロジェクト

専門家によるお話

マナー講座

元えびの市地域おこし協力隊 村上大輔さんのお話

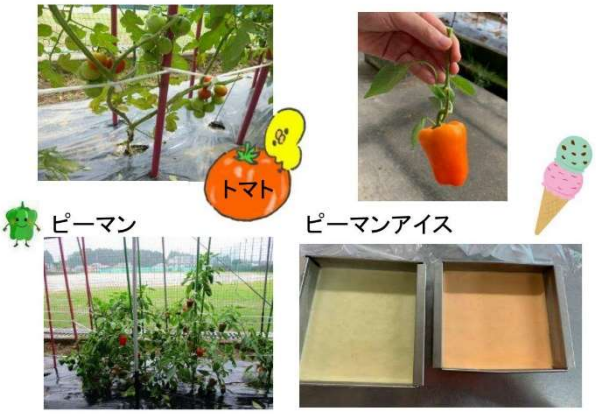
SAPの方たちのお話

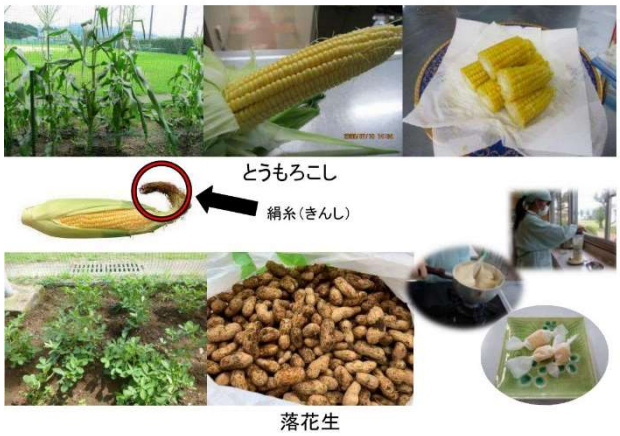
フラワーアレンジ講座

活動内容

・畑づくり

・苗植え





野菜を使って作った料理

とうもろこし

ポテトサラダ

コーン入り米粉パン

トマト

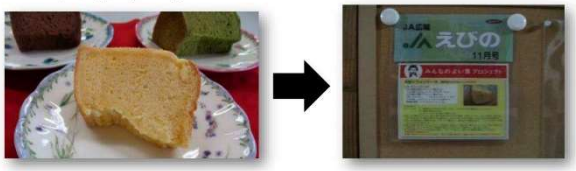
冷製パスタ

トマト・とうもろこしを使った料理

よい食プロジェクト

チンジャオロース

シフォンケーキ



各種料理コンテストに参加

乳・乳製品コンテスト

他・シーフード料理コンテスト
・お弁当甲子園に応募

卵料理コンテスト

地域支援活動

事業所紹介

Aコープ

正一

Riz

ほうよう

あおい

えびの市民図書館

飯野小学校

飯野保育園

第二和光幼稚園

活動内容・行程

Aコープ

・袋詰め（野菜・果物）

・賞味期限チェック

・配達のお手伝い

・商品並べ

Riz

・洗濯

・洗い物

・髪を掃く

・お茶出し

・プレゼント提供
（ヘアピン・コースター・ティッシュケースカバー）

正一

・食器拭き・皿片付け

・お盆洗い

・メニュー・テーブル拭き

・宴会の準備

・補充作業

・スープ配膳

・プレゼント作成
（ストラップ）

ほうよう

・レクリエーション

・おやつ配り

・体操

・プレゼント作成
（ティッシュケースカバー）

あおい

・検定チャレンジ

・雑巾作成

・ティッシュケースカバー作成

・ケーブルハウス作成

えびの市民図書館

・本の整理

・イベント準備

・看板作製

・プレゼント作成
（ガチャガチャ・ツムツム）

飯野小学校

・授業補助

・児童との昼休みの触れ合い

・清掃

・プレゼント作成
（コースター・消毒ケースカバー・ケーブルハウス）

飯野保育園

・清掃

・おもちゃ修理

・おもちゃの消毒

・おやつの配膳

・子供たち起こし

・窓ふき

・プレゼント作成
（こま・ブーメラン）

第二和光幼稚園

・幼児との交流

・清掃

・読み聞かせ

・着替えのお手伝い

・プレゼント作成
（こま・ブーメラン・輪投げ）

えびの産業まつり

田植え・稲刈り（１年）

シフォンケーキ＆実りごはんの試作

米っこシフォンケーキ

秋の実りご飯

事前準備

実りご飯用栗の準備

米粉シフォンケーキ作り

フードデザイン選択生6人で14ホール（112個）作りました。

前日準備

人参を花の形で型抜き

実りごはんの具材を切ってる

豆だけをとる

実りごはんのベースとなるダシ

シフォンケーキ袋詰め

広報活動

えびの産業まつり当日

シフォンケーキは午前中に完売!!
実りごはんも2時には完売しました。

えびの広報誌

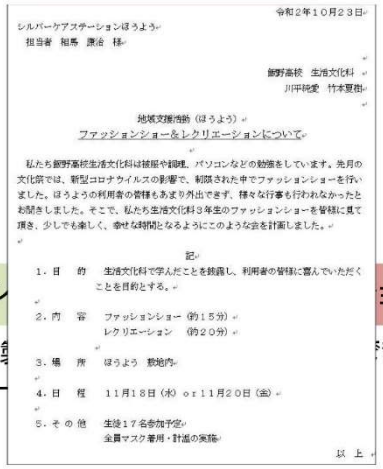
マジ有名人！！

～きっかけ～

自分たちできることは無いかな？

今年は新型コロナウイルスで行事ができていないみたいだからな？

みんなが楽しめるものは無いかな？



令和２年１０月２３日

シルバーケアステーションほうよう
担当者　稲馬　康治　様

飯野高校　生活文化科
川平祐愛　竹本夏樹

地域支援活動（ほうよう）
ファッションショー＆レクリエーションについて

私たち飯野高校生活文化科は被服や調理、パソコンなどの勉強をしています。先月の文化祭では、新型コロナウイルスの影響で、制限された中でファッションショーを行いました。ほうようの利用者の皆様もあまり外出できず、様々な行事も行われなかったとお聞きしました。そこで、私たち生活文化科３年生のファッションショーを皆様に見て頂き、少しでも楽しく、幸せな時間となるようにこのような会を計画しました。

記

１．目　的　生活文化科で学んだことを披露し、利用者の皆様に喜んでいただくことを目的とする。

２．内　容　ファッションショー（約１５分）
レクリエーション　（約２０分）

３．場　所　ほうよう　敷地内

４．日　程　１１月１８日（水）ｏｒ１１月２０日（金）

５．その他　生徒１７名参加予定
全員マスク着用・計温の実施

以　上

ファッシ　　ョン

・被服製　　できる
・ウォー

～計画～

1．利用者さんの思い出になるもの

→ファッションショー

2．利用者さんに楽しんでもらえるもの

→全員で楽しめるレクリエーション

～ファッションショー～

～ファッションショーの様子～

～ジェスチャーゲーム～

活動成果

・コミュニケーションを高めることができた

・報告・連絡・相談の大切さを学んだ

・積極的に動くようになった

・自分の行動に責任を持って行動するようになった

ほうよう
RIZ
A-coop
正一
SAP
第二和光幼稚園
あおい
後輩の活動へ続く・・・
えびの市立図書館
飯野小学校
飯野保育園

10　課外活動への波及

今年度は「地域貢献」「地域探究」「地域支援」それぞれの活動が、生徒主体でカリキュラム内外の活動に広がっている。これは昨年度以上であり、コロナ禍にありながらも実践を重ねていくことで深い学びにつながっていくのではないかと考える。

11　教科と総合探究

探究的な学びを教科の学習にもつなごうと職員研修を実施している。ここでは、地域との協働による探究的な学びを取り入れた各科目等における学習を相互に関連させ，教科等横断的な学習とする取組についてとして各教科の視点で何ができるかを考え、教科ごとに取組みを実践した。

実施内容	詳細
カリキュラム・マネジメント研修会	本校の探究活動をより深化させるため、教科横断のグループで各教科の実践について協議　→各科目で実践

全学科コースで課題解決のための実践を通した探究活動の展開により「主体的で、対話的で、深い学び」につながり、探究のサイクルを回して学びを深めることで様々な教科の思考を要することもでてきている。例えば、観光プロジェクトに取り組んだ生徒で「域内だけ考えるのは限界で、課題を俯瞰し海外の事例を学びたい」と実際に渡航しての調査活動や、オンラインで意見交換会（英語で会話）を行うなど学校・地域の枠を超えた学びを自ら創り出していた。このように活動が深まればおのずと教科的な要素も強くなる事例も出てきている。また、カリキュラム中にインプット、アウトプットの機会を活用しながら教科的な要素を入れていくことも有効である。さらに、教科学習の中でも学年・コースに応じて、どのような指導を行っていくか研修し、職員全体で探究を柱としたカリキュラム・マネジメントに取り組んでいる。以下は英語科の取組みである。

学年・クラス・コース		取り組み内容	期待できる効果
1学年	普通科ＡＢ	・授業はじめにスモールトーク(天気や、週末にしたことなどちょっとした会話)を実施する。 ・日本文化紹介や環境問題などのレッスンで、英語でペアまたはグループ発表を行う。	・自分が体験したこと、感じたこと発表することにより、主体的に表現する力を身につけることができる。 ・1つのテーマについて、意見を出し合いながら、協働して活動する姿勢を育成できる。
	生活文化科Ｃ	・教科書や副教材、VITAL3000(英単語集)を活用し、基礎学力の定着を養成する。 ・普段の授業の中で、小学校英語教育が実践しているまず「音声」（聞く・話す）から入り、「読み・書き」につなげる授業を展開する。	・インターンシップ（地域貢献活動）や田植え（地域支援活動）などを通じて、主体的に自国や地域の文化、自らの経験を英語で発表する素地を作ることが期待できる。

2学年	普通科A総合コース	・地域貢献活動に関するトピックを英語でも取り上げることで、活動への意欲・関心を高める。 ・Small Talk をはじめ様々なグループ活動や、主体的プレゼンテーション活動を取り入れる。	・生徒が取り組んでいる活動を英語でも話題に取り上げることで、英語への苦手意識を払拭し、英語への意欲・関心も高まる。 ・他者とのかかわりの中で、主体性、協調性、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力といった社会で自立して生きる力が養われる。
	普通科B探究コース	・教科書の内容で環境問題や地域貢献などを取り扱った単元を読んだ後で、自分たちは何ができるか考え、英語で発表する機会を設ける。	・日本国内は元より、世界の事象や取り組みを知り、グローバルな視点で物事を捉えることができる。また、英語でのプレゼンやスピーチの経験を積み、自信を持って人前で発表できる態度を育成できる。
	生活文化科C	・生活文化科特有の活動に関するトピックを英語でも取り上げることで、活動への意欲・関心を高める。 ・Small Talk をはじめ様々なグループ活動や、主体的プレゼンテーション活動を取り入れる。	・生徒が取り組んでいる活動を英語でも話題に取り上げることで、英語への苦手意識を払拭し、英語への意欲・関心も高まる。 ・他者とのかかわりの中で、主体性、協調性、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力といった社会で自立して生きる力が養われる。
3学年	普通科A総合コース	・教科書や副教材、Data Base4500(英単語集)を活用し、基礎学力の定着を図るとともに、グループワークを多用することで、授業への学習意欲や興味・関心を高めることに努める。	・普段から音を聞いたり、声を出すことを意識させながら、英語学習に取り組ませることで、モチベーションを維持し、コミュニケーション能力を高める効果が期待できる。 ・また、英語での発表の場を持つことで、主体的に、対話的に地域貢献活動につながる教育を目指す。
	普通科B探究コース	・授業の予習を義務付ける。 ・課の内容に沿って、スピーチやグループによるプレゼン発表をさせる。	・自宅学習だけでなく、授業でも主体的に学ぶ姿勢を持たせることができる。 ・他者と協働する姿勢、自分の考えを持ち、それを表現する力を育成できる。
	生活文化科C	・生活文化科特有の活動に関するトピックを英語でも取り上げることで、活動への意欲・関心を高める。 ・Small Talk をはじめ様々なグループ活動や、主体的プレゼンテーション活動を取り入れる。	・生徒が取り組んでいる活動を英語でも話題に取り上げることで、英語への苦手意識を払拭し、英語への意欲・関心も高まる。 ・他者とのかかわりの中で、主体性、協調性、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力といった社会で自立して生きる力が養われる。

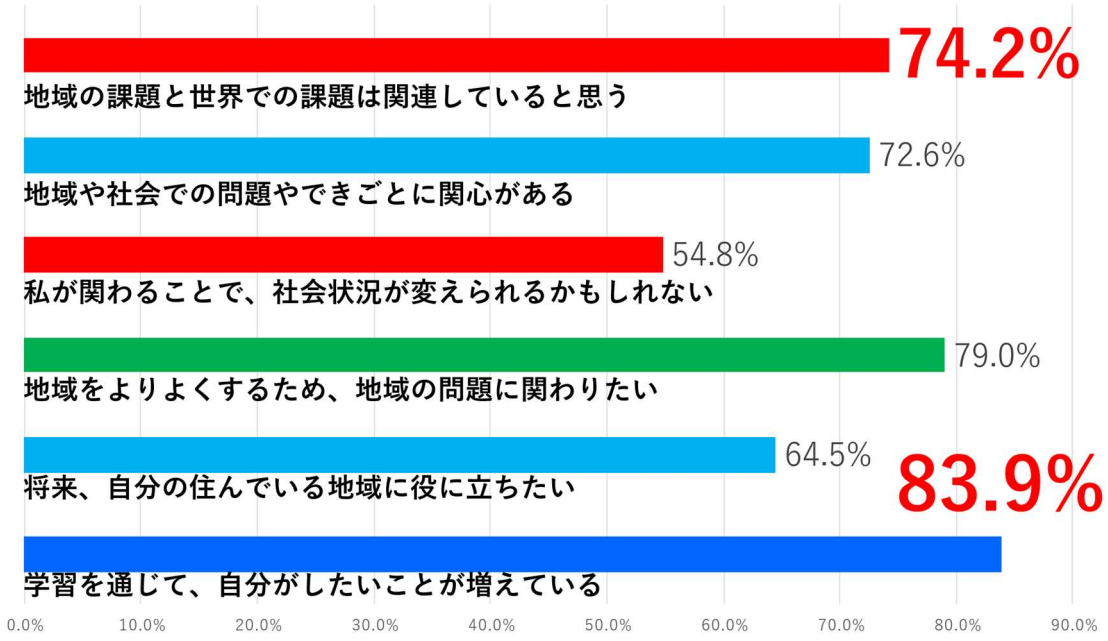
12　次年度以降の課題及び改善点

２年目を終えようとしているが、生徒たちの本事業による取り組みが高校を核とした地域創生に強いインパクトを与えていると実感している。地域とのつながる活動は、「社会に開かれた教育課程」の実現とカリキュラムマネジメントの実践にもつながっている。教科での学習活動にも探究の要素がしだいに入ってきており、次年度以降もさらに発展的に取り組んでいきたいと考えている。

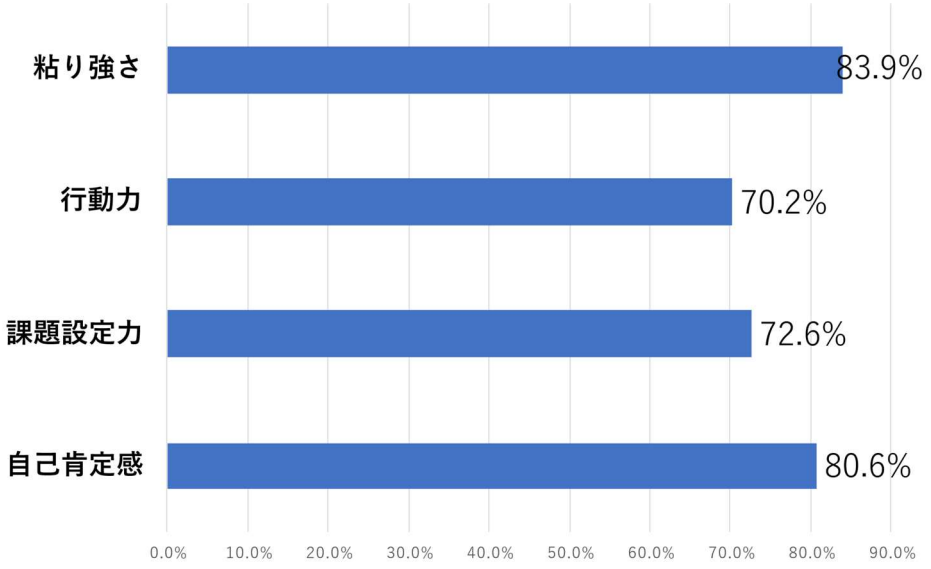
13　生徒の意識変化

以下のグラフは、今年度の 3 年生に開発したカリキュラムを終えた時点で行ったアンケートの結果である。例えば、地域の課題と世界の課題のリンクや地域課題に関わりたいということについては学習の成果もあり当初の目的を達成しつつある。特に、「学習を通じてやりたいことが増えてきている」と回答した生徒が 83.9%と、多くの生徒たちが経験や実践をもとにそれぞれの視点で取り組めたことが分かる。また、「自分が関わることで社会を変えられるかもしれない」と答えた生徒が 54.8%いたことは日本財団が同じ項目で 18 歳に調査している結果（18.3%）を大きく上回っており、高い意識を持った生徒たちが育成できていることが分かる。これらのことは、地域と協働した探究活動で様々な力が身についたことや縦割りの教科学習だけでは身につけることのできない力を得られたことが大きいのではないかと考える。最終年度となる次年度は、このあたりも検証していきたい。

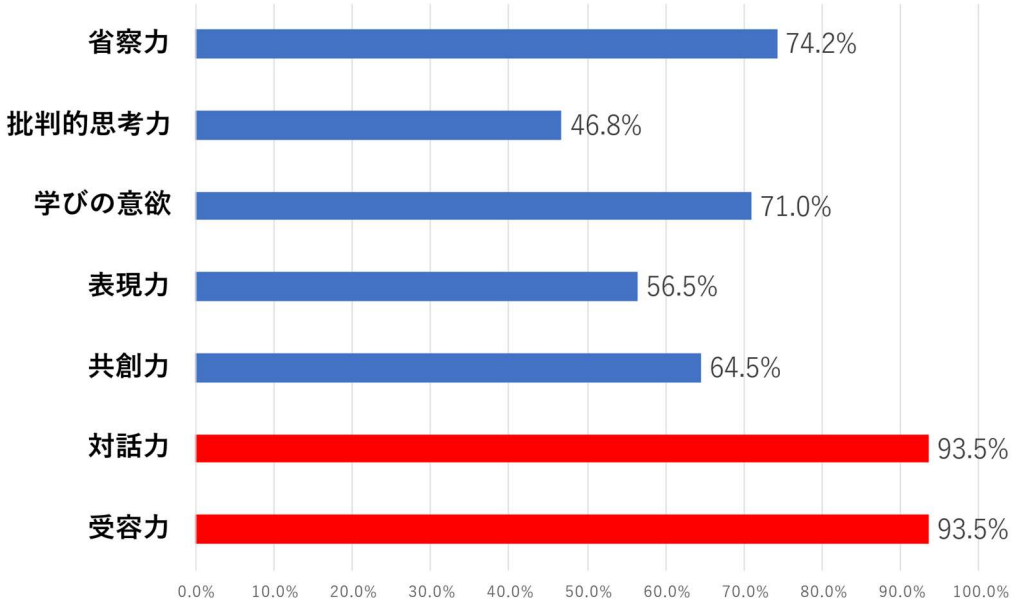
探究を経験してきた飯野高校３年生への調査



探究を経験してきた飯野高校３年生への調査



探究を経験してきた飯野高校３年生への調査



14　成果の普及方法・実績について

各研修会やメディアを通じて本校の取組みを発信している。

・グローカル学習成果発表会の開催（県内外、市内中学校、地域住民　約 100 名オンライン）
・全国グローカルリーダーズ summit の実施（県内外から約 100 名参加※オンライン）
・全国高等学校教育改革研究協議会　事例紹介
・令和 2 年度「地域との協働による高等学校教育改革推進事業担当者会議」事例発表
・ＭＳＥＣ（宮崎県 SDGs 教育コンソーシアム）参画
・宮崎学園高等学校　特別進学科「総合的な探究の時間」授業
・宮崎県立都城西高校職員研修　事例紹介・ワークショップ
・三重県立飯南高等学校職員研修（オンライン）
・えびの未来カフェの開催（本校生＋地域住民 90 名参加　※オンライン）
・ＭＲＴ（宮崎放送）みらい　みらい　まなび隊「地域探究活動」授業紹介
・ＵＭＫ（テレビ宮崎）スーパーニュース　「地域探究活動」紹介
・ＭＲＴ（宮崎放送）ニュース Next　「地域支援活動」紹介
・ＮＨＫニュース　「地域支援活動」紹介
・第１５回マニフェスト大賞　優秀政策提言賞
・宮崎日日新聞掲載「地域貢献活動」「地域探究活動」「地域支援活動」
・視察受入（静岡県立榛原高校、島根県立津和野高校、長崎県立佐世保西高校、こゆ財団）
・静岡県マイプロジェクト教育関係者研修会
・キャリアガイダンス掲載「地域探究活動」　リクルート
・ＶＩＥＷ２１掲載「地域探究活動」ベネッセ
・大学新聞掲載　大学新聞社
・月間ガバナンス掲載

報道資料

令和2年4月8日（水）付　宮崎日日新聞

子育て環境改善 飯野高生ら提言

母親らの声 市に

えびの市の子育て環境をよりよくしようと、同市・飯野高の卒業生3人が3月31日、市役所で村岡隆明市長に、子育て支援策の提案を手渡した。

市役所を訪れたのは、3月に同校を卒業した宮田久代さん（18）と薗柳みのりさん（18）、同校卒3年の川野愛梅さん（17）。3人は2016年から、高校生がとりもち子育て支援イベント「NOCOKU」を市内外で実施している。

3人はNOCOKUについて「参加したお母さんたちは『悩みを相談できる機会がないので、同じ日に遊べる無料がないのがほしい』といった子育て世帯の声を紹介。①子育て支援の設備充実②産後ケアの推進・拡充③公園の整備④乳幼児と触れ合う機会の創出―の4点を求める提案書を提出した。

村岡市長は「提案書は市が課題と捉えている部分もある。しっかり政策に反映させていきたい」と述べた。

★「フレンみや」にも提案

村岡市長に子育て支援策を提案した飯野高生ら

令和2年6月3日付「宮崎日日新聞」

飯野高生と台湾の高校生 ICT使い英語交流

えびの市・飯野高（長谷川岳洋校長、236人）で5月25日、台湾・台北市の復興高級中とのICT（情報通信技術）を通じ、高校生同士で新型コロナウイルス感染症に関する状況などを英語で報告し合い、理解と交流を深めた。

飯野高生が昨年、研修で訪れたことがきっかけで企画。システム会社「ジャスコシステム」（東京）の教育プログラム「デジタルスクール・ネットワーク」を活用して実施した。

授業は質疑応答形式で進められた。生徒たちは感染症対策や休校中の過ごし方、遠隔授業の在り方などについて意見交換。飯野高2年の塚本修三さん（17）は「いろいろなことが分かり、勉強になった。もっと英語を勉強し、今後もさまざまなことを話しながら相互理解を深めていきたい」と話していた。（村永哲哉）

台湾の生徒と遠隔授業で交流を深める飯野高生

令和2年広報えびの5月号

4/3 飯野高校生手作りマスク寄贈

心を込めて作成した贈り物

飯野高校生が社会福祉法人慶和会シルバーケアステーションほうように手作りマスクを寄贈しました。生活文化科2年生約10人が作成した12枚のマスクです。自宅に手持ちのない利用者に優先的に配布される予定です。

同校の山田美知留さんと酒井優希さんは、「自分たちが学校生活で学んだことを生かして作ったマスクを喜んでもらえて良かったです」と話していました。

令和2年4月11日（土）付　宮崎日日新聞

高齢者に手作りマスク

飯野高生 福祉施設に寄贈

がんばろう宮崎

新型コロナウイルス感染症対策に役立ててもらおうと、えびの市・飯野高生活文化科の生徒から3日、同市原田の高齢者福祉施設「シルバーケアステーション」（山口詔寛施設長）に、手作りのマスク12枚を寄贈した。

同校の寄贈を受け入れている同施設のため、同校家庭クラブの生徒が製作。今後もマスク作りに取り組み、福祉施設への寄贈を続けていくという。

同日は同施設で、新2年の酒井優希さん（16）と山田美知留さん（16）が、山口施設長にマスクを贈呈。山口施設長は「手持ちのマスクがない利用者に優先して配りたい。モチベーションをさらに高めて感染予防に努めたい」と感謝した。

酒井さんは「これからも少しでも多くのマスクを届けていきたい」、山田さんは「自分たちが作ったマスクが高齢者の方々の役に立てばうれしい」と話した。（村永哲哉）

手作りしたマスクを高齢者福祉施設に贈呈する飯野高生

令和2年7月3日（金）付「宮崎日日新聞」

飯野小、高生 田植えを体験

えびの市の飯野小と飯野高は6月26日、同市原田の水田で合同の田植え体験を行った＝写真。同小5年生と同高生活文化科の1年生、地域住民ら計約100人が参加。交流を楽しみながら、コメ作りへの理解を深めた。

JAえびの市青年部と女性部が、市内の小学校を対象に実施。同高は地元特産品を開発する体験授業の一環として、2014年から参加している。

同JA青年部の指導で水田に一列に並んで作業を開始。泥に足を取られ苦戦しながら、約1時間をかけて8㍍ほどの水田にヒノヒカリの苗を植えていった。

同小の遠目塚光正君（10）は「泥で汚れたけど、いっぱい植えることができて良かった」、同高の外屋杏莉さん（15）は「コメが黄金色して作られていると分かった」と話していた。

令和2年7月12日付「宮崎日日新聞」

熊本支援行きたいが…

思い阻むコロナ

〝隣町〟の西諸地域住民

豪雨による球磨川の氾濫で熊本県南部に甚大な被害が出てから1週間がたった。同県人吉市などでは日も復旧作業が行われているが、新型コロナウイルス感染拡大を防ぐため、災害ボランティアセンターでの受け付けは同県在住者に限定されている。「何か力になりたい。西諸地域の住民は〝隣町〟に駆け付けられないもどかしさを抱えながらも、物資提供など今できる支援を模索している。

「現地に行きたいが、感染症拡大の恐れがある現状ではしかたがない」。えびの青年会議所理事長の大門哲也さん（38）は率直な思いを明かす。今は人吉市に送る水やマスクなどの救援物資を集めており、「現地に行ける状況になれば、会員たちできる範囲でサポートしたい」。

若い世代も支援ができない心苦しさを感じている。えびの市・飯野高2年の今里浩さん（17）は人吉市の豪雨被害から数日後、同じ思いを持つ生徒たちを代表し「困っている人たちの力になりたい」と教諭に申し出た。しかし、ボランティアとして参加できないため、今後募金活動を行うという。梅北瑞輝教諭（41）は「本当は生徒の思いを尊重したいのだが…」と唇をかんだ。

個人のつながりで復旧作業を手伝う人からは、人手不足を指摘する声も。小林市の会社経営篠山裕和さん（68）は8日、2階まで浸水した人吉市の知人の事務所に駆け付け、家具を運び出す作業などを手伝った。「現地ではとにかく人が足りない。せめて隣接する西諸地域からだけでも応援ボランティアを受け入れてくれれば」と話した。（海老原秀一、村永哲哉）

令和2年7月16日付「宮崎日日新聞」

被災した人吉市の小学生に贈る物資の準備を進める飯野高生徒ら＝15日午後、えびの市原田・飯野高

熊本人吉児童にランドセル寄贈

飯野高生や卒業生

九州豪雨

えびの市・飯野高の生徒、卒業生でつくり、子育て支援に取り組む「Nogoku」は15日、豪雨で甚大な被害を受けた人吉市の小学校にランドセルや文房具などを贈った。（2、23面に関連記事）

被災地の子どもを支援しようと、同校卒業生で、専門学校生の宮田久代さん（18＝えびの市、県立看護大1年の青柳みのりさん（19＝宮崎市＝が企画。人吉市議会を通じて同市教委に必要な物資を問い合わせ、会員制交流サイト（SNS）でランドセルの寄付を募り、1週間ほどで約100個が集まった。

同日は同校生11人が21個のランドセルのほか、ノートなどの文房具、マスクを東間小に届けた。同校3年の川野愛梅さん（17）は「子どもたちに元気を出して、再び学校生活を楽しんでほしい」と話していた。

残る約40個のランドセルは、他の被災地に必要に応じて届けていくという。（村永哲哉）

令和2年7月14日付「宮崎日日新聞」

えびのの将来考える

飯野高でJCフォーラム

えびの青年会議所（JC、大門哲也理事長）は8日、えびの市・飯野高（長谷川岳洋校長、236人）で、同市の将来を考えるフォーラムを開いた＝写真。1年生約80人が講演などを通じ、地域活性化について考えた。

高校生の郷土愛を育み、地元を盛り上げる意識を高めてもらおうと、2015年から毎年開いている。

第1部では同校OBで、専門学校生の岡園和也さん（22）＝宮崎市＝が登壇し、「京町温泉活性化プロジェクト」など高校時代に取り組んだ地域活性化策を紹介。「自らの価値観を構成する材料は地元にある。思い切り飛び込んでみてほしい」とエールを送った。

第2部では岡園さんやえびのJCメンバーら6人が、パネルディスカッション形式で学生時代の経験などを語った。

内田将登さん（16）は「地域に貢献できるよう、これからいろいろと勉強していきたい」と話した。（村永哲哉）

令和2年「広報えびの8月号」

FACE 人

子育て支援サークル

Nogiku

「子育て支援で私たちにできることはないかと思い、活動を始めました」と話すのは、Nogiku代表の宮田久代さんです。

ここで子育てをしたいと思えるようなまちに

Nogikuは、平成30年から活動している飯野高校の子育て支援サークルで、現在、卒業生2人、在校生14人が計16人で活動しています。生徒自身が立ち上げたもので、守護・宏代さんにもなんでも相談ができるお姉さん的な存在です。

これまで3回のイベントを実施してきました。「おひるね・おすわりアート」や「お母さんたちが癒されるようにアロママッサージ」を企画しました。4回目は、クッキングイベントを実施する予定でしたが、新型コロナウイルスの影響で実施することはできませんでした。

新型コロナウイルスの影響で思うように活動ができない中、自分たちにできることはないかと考えたNogiku人吉市ランドセルプロジェクトを発案しました。「隣町の人吉市で災害による大きな被害がでました。自宅で眠っている思い出のつまったランドセルを寄贈したいという思いで企画しました。21個のランドセルに手作りカバー、手作りマスク、文房具、メッセージカードを添えて届けました」

立ち上げメンバーの宮田さんと吉柳みのりさんは、「私たちの活動が、えびのの子育てをしたいと思えるようなまちづくりにつながればいいなと思っています」と笑顔で話していました。

飯野高校関連記事

令和2年 「広報えびの7月号」

6/26 地域開発プロジェクト学習

体験で理解を深める

飯野高校前の水田で田植えが行われました。これは、飯野高校の地域開発プロジェクト学習の一環として行われたものです。飯野高校生活文化科1年生20人、飯野小学校5年生70人が参加し、JAえびのの市さん指導と女性部の指導のもと行われました。

「昔の記憶うめさんは、「みんなと学びして面白くて楽しかったです。できたお米を食べてみたいです」と話していました。

今月の飯野記事

令和2年7月号「広報えびの」

pick up! Iiono topics

文・写真 ＝永田哲夫＝

令和2年8月28日付「宮崎日日新聞」

ラオス文化、言語に興味

飯野高生 現地学生とネット交流

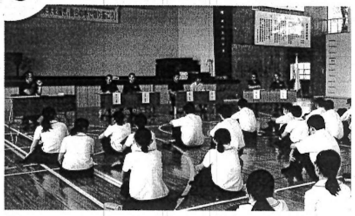
オンラインでラオスの人々と交流し、異文化への理解を深める飯野高生

えびの市・飯野高（長谷川岳洋校長、236人）で、グローバルな人材の育成を目的とした、文部科学省の「WLI（ワールド・ウイド・ラーニング・コンソーシアム構築支援事業）」の一環。同事業の拠点校に指定されている立命館宇治高（京都府宇治市）の呼び掛けで実施し、全国から93人の高校生が参加した。

同校生は1、3年生の4人が現地の小中学生や高校生、農家らとオンラインでラオスの文化もしっかりPRした。国際交流を楽しんだ。

3年の下永雅也さんは、「まったく異なる環境や考え方に触れ、とても勉強になった。いつかラオスや他の国を訪れた際は、日本の文化もしっかりPRしたい」と話していた。（村永哲哉）

7/8 えびの青年会議所フォーラム



未来について前向きに考える

飯野高校で「えびの青年会議所フォーラム」が行われました。これは、飯野高校生がえびの青年会議所の事業に参画し、生徒一人一人が自分の将来に対する不安や疑問を解消することで、明るく前向きに考えることができる契機にしてもらおうと行われたものです。

第1部では飯野高校卒業生の岡園和也さんによる講演、第2部では青年会議所のメンバーなどによるトークセッションが行われました。

7/15 飯野高校オンラインセッション

夢実現に向けて

飯野高校でオンラインセッションが行われ、約30人の生徒が参加しました。オンラインセッションとは、オンラインを通じて遠方の人と会話をするものです。今回のオンラインセッションは、乃木坂46の生田絵梨花さんが「夢を実現する力」をテーマにトークを行いました。

同校2年の新村崚太さんは、「自分から見方を変えるということを意識して、いろんな人と接していきたいです」と話していました。

令和2年9月11日付「宮崎日日新聞」

豪雨被害支援

人吉市復興へ 15万円を寄付

飯野高生

7月豪雨で被災した熊本県人吉市の災害復興に役立ててもらおうと、えびの市・飯野高（長谷川岳洋校長、236人）の2年生20人は4日、募金活動で集めた15万1105円を現地で活動するNPO法人「カタリバ」に寄付した＝写真。

「隣町で困っている人たちの役に立ちたい」と生徒たちが自ら思い立ち、新型コロナウイルスの影響で現地での活動が困難なことから、えびの市内での募金活動を企画。8月にスーパーなど5カ所で寄付を募ったり、募金箱を設置したりした。

同日には生徒6人が人吉市を訪れ、教育支援活動に取り組む同法人の関係者に寄付金を手渡した。今里尽さん（17）は「被災者が日常を取り戻すための活動に役立ててほしい」と話していた。

令和2年「広報えびの9月号」

9/4 いいのコレクション

華やかな手作り衣装をまとって

市文化センターで生活文化科3年生による「いいのコレクション」が行われました。これは、文化祭で毎年行われているもので、同科の生徒が夏休みに制作した服を着てファッションショーを行うものです。

同科3年の永山梨夢さんは「今年は新型コロナウイルス感染症の影響で会場が変わったので、照明や演出もみんなで悩みました。みんなと協力してすることができて感動したし、達成感があります」と話していました。

令和2年9月29日付「宮崎日日新聞」

コロナ禍の医療
飯野高生ら議論
えびので講座

えびの市・飯野高（長谷川岳洋校長、236人）で22日、地域医療に関する講座が開かれた＝写真。生徒や医療関係者ら14人が参加。コロナ禍の中での医療について考えた。

宮崎大医学部と同校の主催で、西諸地域の住民や行政関係者らでつくる市民団体「地域医療を考える会」が共催。同学部地域医療・総合診療医学講座の吉村学教授が講師を務めた。

吉村教授は富山県の高齢者施設で発生したクラスターの事例について解説。参加者は施設職員や医師、看護師といった関係者の立場になったと仮定して意見を述べ、地域医療のサポート態勢づくりなどについて議論した。

同校2年の梅北賢志さん(17)は「地域医療に必要なことは何か、考えを深める機会になった」と話していた。

令和2年10月8日付「宮崎日日新聞」

マニフェスト大賞 優秀賞
「NOGIKU」（えびの・飯野高サークル）
子育て支援 提言を評価

地方自治体の首長や議会、市民による政策立案・実現の事例を表彰する「第15回マニフェスト大賞」（実行委主催）で、えびの市・飯野高のOG2人と生徒14人でつくる子育て支援サークル「NOGIKU」が優秀政策提言に選ばれた。子育て世帯を支えることで虐待をなくしたい―。そんな思いを胸に団体を立ち上げた2人の同校OGは「子育てしやすいまちづくりに向け、さらに頑張りたい」と声を弾ませた。

えびの市役所を訪れ、子育て支援策の提案書を村岡隆明市長に手渡したNOGIKUのメンバーら（3月31日）

実行委が7日、発表した。NOGIKUは2018年、当時同校2年だった宮田久代さん(18)＝えびの市、青柳みのりさん(19)＝宮崎市＝が設立。子どもと高校生らが遊ぶ間、親に自分の時間を過ごしてもらう子育て支援イベントを不定期に開催し、毎回ボランティアとして多くの飯野高生も参加している。

今年3月には、SNS（会員制交流サイト）で子育て中の母親らに行政に求める支援策などを聞き取るアンケートを実施。結果を踏まえ、村岡隆明えびの市長に①子育て支援の推進・拡充②産後ケアの整備充実③公園の整備④乳幼児と触れ合う機会の創出―の4点を求める子育て支援策の提案書を提出した。

こうした活動が評価されての受賞。宮田さんは「受賞したことで、今までとこれからの活動に自信が持てる。若者が子育てについて知る機会を作っていきたい」、青柳さんは「活動を多くの人に知ってもらうきっかけになり、うれしい。少しでも子育てに励む人たちの力になれるよう、今後も取り組んでいくと喜びを語った。

同賞は06年に始まり、今回は7部門に2842件の応募があった。優秀賞はNOGIKUを含む35個人・団体が受賞した。（村永哲哉）

令和2年10月29日付「宮崎日日新聞」

地域住民と花壇を整備
飯野高

えびの市・飯野高は24日、地域住民らと花壇の整備活動を行った＝写真。同校が導入している、学校運営に家庭や地域が一体となって取り組む「コミュニティ・スクール（CS）」行事の一環。

同校生や教諭、地域住民のほか、同市・コスモ緑化建設の社員ら計約20人が参加した。正面横のスペースに岩を並べて固定したり、黒土を整備したりして花壇づくりに汗を流した。11月に花を植える予定という。

2年の高崎レオさん(16)は「地域の方々とも話しながら作業でき、楽しかった。きれいな花壇になるといい」と話していた。

令和2年10月18日付「宮崎日日新聞」

■飯野高生がZoom使い方を伝授

えびの市・飯野高の生徒が高齢者らにビデオ会議システム「Zoom（ズーム）」の使い方を教える体験会が11日、えびの市起業支援センターであり、市民11人が参加した＝写真。

同市の将来などについて意見を交わす「えびの未来カフェ」（えびの市市民団体連絡会議主催）には、市民約100人と同校生らが毎年参加。今年はオンラインで25日開くため、ズームの使用法を伝えようと体験会を実施した。

生徒たちはスマートフォンやタブレット端末を手にした参加者に、操作方法などを丁寧に伝えていた。同市大河平の西道りえさん(17)は「難しそうで抵抗があったが、使ってみると簡単で便利で驚いた」と話していた。

同カフェは同市在住か出身者が対象。同会議の石坂さんpkaiin@yahoo.co.jp

令和2年11月1日付「宮崎日日新聞」

ビデオ会議 意見交換
えびの 飯野高生や市民ら

えびの市の高校生や市民らがオンラインで意見を交わした「えびの未来カフェ」

えびの市の高校生や市民、民団体連絡会議主催）は10日、オンライン形式で「えびの未来カフェ」（えびの市市民団体連絡会議主催）は10月25日、オンライン形式で開かれた。飯野高の生徒や市民ら約30人が意見交換した。

同市の発展につなげようと、2016年から毎年開催。今年は新型コロナウイルス対策として初めてビデオ会議システム「Zoom（ズーム）」を使って実施し、福岡県福津市の地域活性化に取り組む山口翼さん(51)が進行役を務めた。

参加者は「雑談って何」をテーマに、4、5人ずつ討論。「人と人との距離が表れるもの」といった意見が上がり、参加者は雑談の重要性を再認識していた。

今回のテーマを考えた同校2年の長友彪さん(16)は「さまざまな人の意見を聞くことができて勉強になった。雑談を大切にして、えびのをもっと良い町にしていきたい」と話した。

令和2年11月6日（金）付「宮崎日日新聞」

児童ら仮装し吉都線に乗車
飯野高生が企画

地元を走るJR吉都線を盛り上げようと、えびの市・飯野高（長谷川岳洋校長、236人）の生徒10人が10月31日、ハロウィーンイベントを開いた＝提供写真。

市民団体「吉都線に観光列車を呼ぼう小林実行委員会」の協力を受けて開催し、小学生22人が参加。えびの市方面から小林駅まで乗車した児童らは、商店街を歩いてお菓子をおねだり。同路線応援大使のシンガー・ソングライター大野勇夫さんによる駅ホームでのミニライブもあった。

えびの市・真幸小5年中村風花さん(11)は「仮装して列車に乗るのはわくわくした」と笑顔。飯野高3年の川副佑馬さん(18)は「参加した小学生が通学で利用する頃も、吉都線が残っていてほしい」と話した。

令和2年11月14日（土）付「宮崎日日新聞」

社説

小規模高校統廃合

地域と協働し魅力高める時

県教委の諮問機関である県学校教育計画審話会が提言をまとめ、小規模高校の統廃合について従来方針の転換を県教委に求めた。「地域の人材育成の核として統廃合慎重に検討することが必要」としており、2005年度以降に加速した統廃合の流れに一定の歯止めがかかりそうだ。小規模高校を抱える地域にとっては朗報だ。

県立高校教育整備計画では、教育の質を確保するための適正な学校規模は1学年4～8学級が基本。4学級以下の高校で大幅に定員を満たさない状況が続き、学級の削減がやむを得ないと予測される場合に統廃合を検討。これに対し懇話会は「適正規模を下回ったことのみを理由に、統廃合を検討することは見直す必要がある」と指摘した。

県内の中学校卒業者は約1万人で30年間で約半数になった。通学区域撤廃で流動化が進み、私立高校の存在感が増していることなどから、県立小規模高校は定員割れ、広がる学力差、部活動の停滞など苦境にある。44校あった県立高は来年度、37校に減る見込みだ。このまま〝瀕死〟状態を看過はできない。単なる効率化で統廃合を進めることなく、存続を模索する道が開かれたことを歓迎したい。

これを機に、県立高校の特色や魅力を厚く取り組みを本格化させる必要がある。そこで、注目されるのがえびの市・飯野高だ。定員割れにあえいできたが、進路指導部長の梅北瑞輝教諭は先進地視察などを重ね、魅力化へ奔走。10年度にキャリア教育を柱に据えインターンシップを開始し、探究授業へ発展させるなど試行錯誤。JR吉都線や温泉郷の振興など生徒たちが自ら起案し、地域課題の解決に主体的に取り組む新たな学習スタイルが確立された。

「課題の多い地域だからこそ、実社会から学べる環境と捉え直した。生徒は地域の大人たちと出会うことで目に見えて成長し、意欲的になった。学業と部活動の限られた側面だけで見がちだった教職員も、違う側面から成長や個性に気づけるようになり、地域からの信頼も強力になった」と梅北教諭。

この10年間で〝選ばれる高校〟に変身を遂げつつあり、地元中学生の進学率は上向き、全国枠の入学者応募で本年度、東京などから4人が入学。特色ある教育活動への模索と情熱が、新たな入学希望者を呼び寄せ、人材の〝逆流〟を予感させる好循環を生み出している。

産官学民による「飯野高を守り育てる市民の会」、同市の財政支援も大きな後押しになっている。小規模ゆえの課題を課題で終わらせず、小規模だからこそ実現できる教育がある。活性化へ英知を結集させる時だ。

考えよう　郷土の課題　　2020年11月14日

令和2年11月29日（日）付「宮崎日日新聞」

農業生かし地域活性化

宮崎産経大アグロポリスコンテスト

地域に眠る農業などの資源を生かした地域活性化策を競う本年度の宮崎産業経営大学アグロポリスコンテストは1日、宮崎市の同大学であった。同大学が掲げるアグロポリス構想＝図＝に基づくもので、県内5地域（五ケ瀬町、西都市、綾町、えびの市、串間市）に分かれ、現地調査などを行ってきた同大学の学生や高校生ら各6人でつくる5チームが出場。約9カ月にわたる活動の成果として、人口減少や高齢化といった課題に直面する各地域の活性化策や観光戦略を発表した。優勝した西都市チームをはじめ、各チームの発表内容などを紹介する。

コロナ禍にあって「アグリツーリズムは人が密集しにくい新しい観光の形だ」と訴えたえびのチーム

えびのチーム　農村ワーホリ制示す

えびのチームは農業体験などを行うアグリツーリズムの現状や課題について調査。新型コロナウイルスの影響で団体旅行や長距離の移動が自粛される中、「密集しにくい観光の形は、これからの時代の大きな武器になる」と、アグリツーリズムの成長性を訴えた。

チームはえびの市でアグリツーリズムに取り組む団体に聞き取り調査を実施。都市部からの修学旅行などでニーズは高いが、受け入れ側の登録事業者が18件にとどまるなど課題を把握した。

宮崎産業経営大3年、田代海斗さん(23)は「ビジネスとして地域全体に広めることが大切」と説き、受け入れていない農家からの意見を基に「人的資源や資金不足などが原因で、課題解決のためには行政支援が必要」と指摘した。

その上で、「広告・宣伝の改善」や「空き家を利用した市営宿泊施設の設置」を提案。「お金をもらって農業体験をしてもらうより、繁忙期にお金を払うからアルバイトをしてほしい」という農家のニーズを踏まえ、農村ワーキングホリデー制度といったアイデアも示した。

アグリツーリズムについて、JAえびの市青年部の本田敦さん(25)は「市も重要性を認識している。周りの農家にも加入を促していきたい」と意欲。同大学2年、是澤孝代さん(20)は「受け入れ農家にとっても若い世代と交流できる機会になり、得るものは多いはず。将来の仕事として農業をイメージするきっかけになる」と述べた。

メンバー　田代海斗（宮崎産業経営大3年）是澤孝代（宮崎産業経営大2年）立山栞（飯野高2年）新村悠真（都城西高3年）竹田夏実（宮崎西高2年）本田幹英（JAえびの市青年部）

令和2年12月4日（金）付「宮崎日日新聞」

10/31　きっとハロウィン

吉都線の活性化を目指して

小林市のTENAMUビルで「きっとハロウィン」が行われました。これは、吉都線の活性化を目的に、飯野高校生が企画・実施したものです。イベントには、22人の児童が参加し、吉都線を利用して会場に集まりました。

同校3年の川副佑馬さんは、「コロナの影響で観光列車のチャーターはできませんでしたが、違う形で吉都線活性化のためのイベントができて良かったです」と話していました。

高校生の活動　地域で応援を

会社員　山﨑　峰雄　73

現代の高校生は学校の授業だけでなく、地域に溶け込んだ活動をしているようです。われわれの時代とは様相が一変していると感じています。これも時代の流れでしょうか。

地元・飯野高校の生徒は「地域、自分たちを変える」と題し、子育て支援やボランティア活動を中心に各種行事に取り組んでいます。地域に自ら働き掛けていく姿は頼もしく感じます。

今は人工知能（AI）の発達で、リモート授業として外国の学校や国内の高校との情報交換をしているようです。そこには先生方が夜遅くまで、時には休みを返上して指導されている力が大きくかかわっていることでしょう。

われわれ市民も、高校生の活動に理解を示し、協力して地域活性化を図らなければ、ますます町が衰退する時代になるのではないかと痛感しています。

（えびの市）

令和2年12月25日（金）付「宮崎日日新聞」

認知症の啓発へ ストラップ贈る

えびの市に飯野高生 認知症の啓発や理解促進

えびの市・飯野高（長谷川岳洋校長、236人）のJRC部は18日、市に手作りのストラップ200個を寄贈した＝写真。

部員26人や同部OGが作製した、認知症サポーターキャラバンのマスコットキャラクター「ロバ隊長」のストラップを贈呈。同部は今後も啓発グッズ作りに取り組んでいくという。

ストラップは、市地域包括支援センターが認知症啓発活動に活用する。

元部長で3年の涌水蓉月さん(18)は「認知症やサポーターの存在について、多くの人に知ってもらきっかけになればいい」と話していた。

令和2年12月26日（土）付「宮崎日日新聞」

地域活性へ 自校事例紹介

飯野高生が全国サミット

目指す豊かなくらしへ みやざきSDGs

全国の高校生らがオンラインで意見を交わした「全国ローカルリーダーズサミット」

高校生らが学校の枠を超え、地域の課題などについて考える「全国グローカルリーダーズサミット」は20日まで2日間、えびの市・飯野高（長谷川岳洋校長、235人）であった。全国の大学や高校、NPO法人など約40団体がオンラインで参加。学校での取り組みの発表などを通し、活性化策を探った。

ローカル（地域）に根差しながらグローバル（世界的）な視点で行動する「グローカル」の考え方を共有しようと、同校3年の益山稜さん(18)と中村千笑理さん(18)が企画し、今回で3回目。初日は学校生徒が子育て支援やJR吉都線の利用促進といった同校の取り組みを紹介。2日目は参加者が「自分らしさ」をテーマに意見交換する「未来カフェ」などを実施した。

「実行委員を務めた益山さんは「さまざまな世代や立場の人の考えに触れ、自分の人生の幅が広がった。この学びを今後の人生に生かしたい」と話した。（村永怜哉）

頑張ってます！ 飯野高校生 （2月26日付け宮崎日日新聞）

令和3年2月21日（日）付「宮崎日日新聞」

高校発 みやざきSDGs ―6

目指す主な目標 11 住み続けられるまちづくりを

飯野高（上）

重要な地域人材育成

「今度の地域プロジェクトについて先生の意見を聞かせてください」。ここから始まる私と生徒との「対話」は、しばしばこれからの地域のことに話が及ぶ。国の第2期「まち・ひと・しごと創生総合戦略」にある地方創生SDGsの実現は持続可能なまちづくりや、グローカル（地球規模の視野で考え、地域視点で行動する）ことが求められている。

注目されているのが本校の取り組みだ。昨年度より文科省「地域との協働による高等学校教育改革事業（地域魅力化型）」の指定校として、えびの市や地域の事業者による強力なバックアップの下、探究学習が展開されている。生徒は身の回りや地域の課題を自ら解決策を考え、実践するプロジェクト型学習で学ぶ。

京町温泉みなほ会と温泉郷の雰囲気づくりに向けた提灯づくり。地域住民と共創する取り組みが広がっている

例えば、地域の活性化を観光面から考えたいと、「京町温泉みなほ会」と協働して温泉郷の雰囲気づくりを探究した。生徒は、海外の大学で温泉文化について学んだ。加えて自分がよりソーシャルイノベーションを起こす地域の人材となるためには、自身が将来にわたり地域社会に貢献できる力を育成する必要性を強く感じた。

本校とえびの市は、このような人材を輩出する取り組みを共創している。中山間地域が大部分を占める本県で高校による地域人材の育成は極めて重要だ。本校では地域での学びが生徒の将来にも結び付き始めている。

「地域×高校」の生徒たちの活動に今後もぜひ注目していただきたい。

（指導教諭・梅北瑞輝）

―日曜日掲載―

令和3年2月28日（日）付「宮崎日日新聞」

高校発 みやざきSDGs ―7

目指す主な目標 3 すべての人に健康と福祉を

飯野高（下）

地域に「学びの土壌」

「誰もが安心して子育てできる環境をつくりたい」。この思いから生まれたのが子育て支援サークルNogiku（のぎく）だ。学校設定科目「地域探究活動」において子育てイベントや啓発活動を展開している。

このプロジェクトが立ち上がったのは、親から子への虐待の報道がきっかけだ。虐待は親のストレスに起因するものが多いのではないかという仮説の下、イベントを実施。親がリラックスできる場を提供し、子どもには思い切り遊んでもらう。地域で子育てを見守る雰囲気をつくれれば、子育て世代が安心して暮らせる街をつくれるというものだ。

子育て支援サークルNogikuのイベント。自治体や地域の事業者によるサポートが生徒の主体的な学びを支えている

昨年、この取り組みの成果・分析を子育て支援策としてまとめ、えびの市へ提言したことが、全国でのマニフェスト大賞優秀賞受賞という快挙となった。このほか生活文化科による「親子連動会」の企画や図書館での読み聞かせ会、普通科総合コースの保育園等での実践は、これからを担う高校生が主体となり地域にインパクトを与えている。

こうした活動には、地域に共学共創の「学びの土壌」があることが大きい。本校には魅力化コアチームという事業家で構成された高校生の活動を支援するコンソーシアムがある。先日も、生徒と医療関係者でウィズコロナの地域医療について対話する会を実施している。ここでは大人の学びにも話が及ぶ。ポストコロナに向け、高校と地域が一体となり持続可能な社会づくりがえびの市では既に進んでいる。

（指導教諭・梅北瑞輝）

―日曜日掲載―

令和3年
3月30日（火）付
「宮崎日日新聞」

県予算の現場から 2021年度 －5－

ICT化「格差」解消

地域教育

JR吉都線を使って小林市の自宅から通学する飫肥高2年の新村峻太さん(17)は授業の一環で路線活性化に取り組む。同路線は3年前に利用者減を理由に大幅減便されたほか、年間3億円以上の赤字を計上し、常に存続の議論がつきまとう。新村さんは「次世代に存続させるためには自分たちが知恵を絞る必要がある」と危機感を持ち、「自分ごと」として吉都線に向き合っている。

新村さんら生徒9人らしている。市民団体「吉都線に観光列車を呼ぶ小林実行委員会」の吉村秀昭会長(42)は「飫肥高生の活動はわれわれ以上に地元への波及効果が大きい。生徒の思いや体験を次世代や他の学校にどう伝えていくかが私たちの課題になっている」と刺激を受けている。

JR吉都線活性化のため高校生目線でイベント企画などに取り組む飫肥高生たち＝24日午後、JR都城駅（木上友貴撮影）

一方、少子化や私立高授業料の実質無償化などを背景に県立高の入学者数は減少の一途をたどる。2021年度の最終志願状況は、前年度比481人減の4332人となり、全日制34校中25校で志願率が1倍を切った。

郡部での傾向は顕著で、県高校教育課も「学校は地域の活力を生み出す拠点として重要な役割を担う」との認識を示す。

対策として県教委は新年度から各学校の魅力を向上させるため、地元企業や自治体との連携強化に乗り出す。加えてICT（情報通信技術）を活用したオンライン授業や遠隔授業を導入することで、地域間にある「学びの格差」の解消も目指す。これらの事業費として21 78万円を計上した。

生徒たちが学ぶ地域課題を教科や単位としてどうかに扱うかという課題がある。進学校などではカリキュラムに入れる難しさもある。飫肥高の梅北瑞輝指導教諭は「特色や魅力を磨くため、学校側の工夫や力量も求められる」と指摘した。（松﨑千穂）

＝おわり＝